Hey！Hey！Hey！

未来へよ～そろ～30

平成３０年度
男女共同参画社会づくり
地域リーダー育成事業
研修報告書

平成３０年度男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業研修報告書

目次

あいさつ

◇熊本県男女参画・協働推進課長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.１

◇研修団長　永田　尚稔（研修生代表）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.２

研修生名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.３

年間事業スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.４

研修生レポート

◇県外研修・研修日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.７

◇事前研修　平成３０年８月１７日（金）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.９

◇県外研修　平成３０年１１月２日（金）～４日（日）

視察１　フォーラム事業説明・施設見学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.１１

講話１「統計から考える日本の・熊本の男女共同参画」髙橋由紀氏・・・・・・・・・p.１３

講話２「行列のできる講座とチラシの作り方」坂田静香氏・・・・・・・・・・・・・p.１５

視察２　エセナおおた事業説明・施設見学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.１７

交流（意見交換会）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.１９

講話３「女性の視点の防災と復興」浅野幸子氏・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.２７

講話４「イクメンとイクボスが社会を変える！」東浩司氏・・・・・・・・・・・・・p.２９

講話５「男女共同参画視点での地域づくり」庄嶋孝広氏・・・・・・・・・・・・・・p.３１

解団式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.３３

◇事後研修　平成３１年（２０１９年）1月１１日（金）・・・・・・・・・・・・・・・ p.３４

個人レポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.３７

自主企画研修報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.５９

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.８６

挨拶

平成１１年に制定された男女共同参画基本法の前文において、男女共同参画社会の実現は緊要な課題であり、２１世紀の日本社会を決定する最重要課題と位置付けられています。

本県では、平成１３年に熊本県男女共同参画推進条例を制定するとともに、熊本県男女共同参画計画を策定し、社会情勢に応じた改訂を加えながら、あらゆる分野における男女共同参画を推進してきました。現在、計画の基本目標である「男女がともに自立し支えあう、多様性に富んだ活力のある社会の実現」をめざし、「固定的性別の役割分担の解消」や「長時間労働に対する男女の意識の変革」などの実現に取り組んでいます。

近年では、国は女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性の活躍推進法）など、男女共同参画社会の実現に向けて取り組みを進めています。本県においても、「熊本県女性の社会参画加速化戦略」を策定し、女性の社会参画を加速化するうえでの課題に対応して、『熊本が変わる』ため、『企業、女性・男性、社会が“変わる”』という視点で、女性の社会参画の加速化に向け取り組んでいます。

男女共同参画社会の実現のためには、行政だけでなく、県民の取組みが重要です。このことから本県では、地域・職場・家庭などでの男女共同参画推進のけん引役となる人材の育成を目的に、昭和５８年度から「男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業」を独自に実施しています。これまでに９００名以上の修了者が誕生し、それぞれが、県内各地で様々な活動に取り組んでいます。

今年度も、県内各地から２６名の方々が参加し、東京都や神奈川県への３日間の県外研修プログラムを中心に、男女共同参画の基礎から、防災・復興における女性視点の必要性や、地域づくりまで、男女共同参画の視点を通して学びを深めました。

この報告書には、研修生の皆様の学びや、新たな気づきが記されています。これにより、当事業の成果と意義への理解が深まるとともに、研修生の皆様のより一層の御活躍を期待しております。

最後に、この研修にあたり、講師や視察の受入など、事業実施に格別の御高配をいただきました関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

平成３０年（２０１９年）３月

熊本県環境生活部県民生活局
男女参画・協働推進課長
真田　由紀子

研修生代表挨拶

平成３０年度男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業　県外研修に参加された皆様方いかがお過ごしでしょうか。意識改革を図り、既に地域において男女共同参画社会づくりに成果を活かしておられる方もいらっしゃると思います。

私は今、昔読んだ外山滋比古（ﾄﾔﾏｼｹﾞﾋｺ）著「思考の生理学」を研修終了後再読しています。この著者によると飛行機は自由に空を飛べますが、グライダーは自力で飛ぶことができません。私は、学校、金融機関という組織・職場の組織体制で育ち、この環境に埋没され男女共同参画はもとよりジェンダーの意味さえ理解していませんでした。

私は毎年４月に咲く花は見ても、枝葉は見ません。仮に枝葉を見ても幹には目を向けない、とかく花という結果のみに目をうばわれて、根幹には思いが及ばない人間でした。
８月１７日にパレアで行われた事前研修において男女共同参画社会について研修を受け、更に県外研修において同じ方向性の男女共同参画社会づくりの方々と共に２泊３日泊まり込みの研修を受け、私にとっては大きな意識改革となりました。

これからは、男女共同参画社会づくりに努め、グライダー人間から飛行機人間を目指していきたいと思います。このままグライダー人間なら、そのまま勢いを失い上昇することなく谷底に墜落することでしょう。（私はこの世に長く生きられない。）

研修での「男性にとっての課題・中高年の自殺率の上昇」において、男性はとかく独り身になった場合、自宅に引きこもり、それに伴い他人と話す機会が少なくなります。誰かと話して気分発散ができず、加えて料理も作れないなら、例え、近くの外食チェーン店等で食事はできますが、栄養が偏って精神障害に陥ってしまいます。私の近くの長寿で元気な高齢者は、良き話し相手を持ち、食事も自分で作り、食事の栄養バランス・良き友との会話・適度のグラウンドゴルフ等の運動をして体を動かして長生きされています。

テレビのコマーシャルにて、かつて「女房に逃げられても弁当屋〇〇があれば生きていける」というのがありましたが、これでは栄養が偏るので、今後は、社協等主催の料理教室にも通い「男性厨房に入らず」で育った私は、食事作りの修行から臨みたいと思います。
平成３０年度研修生の皆様、男女共同参画社会づくりに係る理解度が２６人中２６番目に低かった私が研修生代表になり、ご迷惑をかけましたことをここにお詫び申し上げます。
県の真田課長並びに猪俣主事をはじめ関係各位の皆様お世話になりました。

平成３０年度研修団　団長
永田　尚稔

研修生名簿

《1班》 班長：田上　恵美

氏名	市町村	区分
藤原　良弘	熊本市	一般
宮島　日登美	山鹿市	一般
戸塚　あや子	益城町	一般
澤永　智子	八代市	市町村職員
河野　彰慶	山鹿市	市町村職員
田上　恵美	益城町	市町村職員

《2班》 班長：宮川　博貴

氏名	市町村	区分
切通　陽子	荒尾市	一般
玉屋　宏進	荒尾市	一般
出口　こずえ	大津町	一般
西　卓也	荒尾市	市町村職員
宮川　博貴	玉名市	市町村職員
氏家　良子	菊陽町	市町村職員

《3班》 班長：上野　智美

氏名	市町村	区分
上野　智美	菊池市	一般
株元　知子	合志市	一般
永田　尚稔	和水町	一般
東　洋子	長洲町	一般
宮本　京子	菊池市	市町村職員
髙木　慎一郎	和水町	市町村職員
浜田　美由紀	長洲町	市町村職員

《4班》 班長：入江　孝美

氏名	市町村	区分
松本　由香里	天草市	一般
東　喜美子	宇土市	一般
入江　孝美	宇城市	一般
岡田　恵	天草市	市町村職員
中村　健一	天草市	市町村職員
河野　史治	宇土市	市町村職員
田嶋　智子	宇城市	市町村職員

年間事業スケジュール

項目	日程	内容
研修参加者募集	4月23日(月) ～6月8日（金）	・募集人数３０人 （一般研修生２０人、市町村職員研修生１０人）
研修参加者決定	7月9日（月）	・研修参加者２６人 (一般研修生１３人、市町村職員研修生１３人)
【事前研修】	8月１７日（金）	・男女共同参画に関する基礎研修 ・県外研修①オリエンテーション ②グループワーク
【県外研修】	１１月２日（金） ～１１月４日（日）	・男女共同参画に関する専門研修（講話） ・拠点施設（男女共同参画センター横浜、エセナおおた）の視察及び交流
自主企画研修	11 月～１２月	・研修成果を生かした自主企画の実践 （県外研修で習得したことの報告会や、男女共同参画をテーマにした研修会等）
【事後研修】	1月１１日（金）	・過去の研修修了生による活動紹介 ・自主企画研修の成果発表 ・今後の活動等についての意見交換
研修報告書の作成	1月～3月	・レポートの編集・印刷・製本
地域リーダー研修 修了証の交付	3月	・研修修了証の交付

研修レポート

研修での、「講話」「視察」「交流」のレポート。

平成３０年度　県外研修日程①

時間	11/2（金）　＜第1日目＞		11/3（土）　＜第2日目＞	
8				
			8:55 ―	ホテル「パールホテル川崎」集合
9			9:00 ―	ホテル「パールホテル川崎」発　移動（貸切バス）
			9:30 ―	大田区立男女平等推進センター（エセナおおた）着
10			9:40 ―	**講話２** **「行列のできる講座とチラシの作り方」** ＮＰＯ法人男女共同参画おおた理事長　（坂田静香氏） 1時間30分 （9:40～11:10）
11				休　憩（10分）
			11:20 ―	**視察２　エセナおおた施設見学** 事業説明と施設見学 1時間　（11:20～12:20）
12	12:00 ―	**集合**（場所：羽田空港第２旅客ターミナル）	12:20 ―	昼食兼交流会 1時間　（12:20～13:20）
	12:05 ―	羽田空港発　移動（貸切バス）		
	12:50 ―	男女共同参画センター横浜（フォーラム）着		
13	13:00 ―	**視察１　フォーラム施設見学** 事業説明と施設見学 1時間30分 （13:00～14:30）	13:20 ―	**交流** **意見交換会** ※グループに分かれての分科会の後、全体会 2時間30分 （13:20～15:50）
14		休　憩（10分）		休　憩（10分）
15	14:40 ―	**講話１** **「統計から考える日本の・熊本の男女共同参画」** 国立女性教育会館(ヌエック)客員研究員（髙橋由紀氏） 2時間 （14:40～16:40）	16:00 ―	**講話３** **「女性の視点の防災と復興」** 減災と男女共同参画研修推進センター共同代表（浅野幸子氏） 1時間30分 （16:00～17:30）
16				
	16:50 ―	フォーラム発	17:40 ―	エセナおおた発
17		移動（貸切バス）		移動（貸切バス）
	17:40 ―	ホテル「パールホテル川崎」着	18:10 ―	ホテル「パールホテル川崎」着
18				
19				

平成３０年度　県外研修日程②

時間	11/4（日）　＜第3日目＞	
8		
	8:40 ―	ＴＫＰスター貸会議室 川崎駅前 集合
9	9:00 ―	講話４ 「イクメンとイクボスが社会を変える！」 ＮＰＯ法人ファザーリングジャパン理事　（東浩司氏） 1時間30分（9:00～10:30）
10		休　憩（10分）
	10:40 ―	講話５ 「男女共同参画視点での地域づくり～地域での「男性活躍」のススメ～」 市民社会パートナーズ代表　（庄嶋孝広氏） 1時間30分（10:40～12:10）
11		
12	12:10 ―	解団式・解散
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		

事前研修

[日時] 8 月 17 日（金）10:00～15:30
[場所] くまもと県民交流館パレア　会議室１
[記録] 猪俣　広恵（熊本県）

[事前研修のメニュー]

１　開会（男女参画・協働推進課審議員挨拶）･････････････････････････ 10：00
２　事業説明（県・男女共同参画センター）･････････････････････････ 10：05
３　講話「いま、なぜ、どんな男女共同参画社会なのか」･････････････ 10：30
　　熊本大学法学部　鈴木　桂樹教授
４　オリエンテーション･･ 13：00
　　① 県外研修の概要説明
　　② 班別グループワーク（自己紹介、意見交換計画作成等）
　　③ 団長決定

[講話]

「いま、なぜ、どんな男女共同参画社会なのか」
熊本大学法学部　鈴木　桂樹教授

研修の第一歩として、男女共同参画社会とはどのようなものなのかを理解するために、熊本大学の鈴木桂樹教授から、「いま、なぜ、どんな男女共同参画社会なのか」をテーマにお話をいただいた。

○男女共同参画社会とは

性差には、生物学的・生理的性差（ｓｅｘ）と、社会的・文化的・歴史的につくられた性差（ｇｅｎｄｅｒ）がある。後者については何をもって男らしさ、女らしさとするかは、国や地域時代によって大きく異なり、社会的・文化的・歴史的につくられた違いは変えていけるものである。「男」「女」とせず、一人一人違うということを認識することが男女共同参画の視点である。

○なぜ、いまなのか

国際社会の経済情勢は変化して、競争が激化した。先進国はより高度な人材活用戦略を取り入れ、危機を乗り切ろうとしているが、日本のこれまでの性別役割分業では、現在の社会には通用せず、国際社会に太刀打ちできなくなっている。少子高齢化が進む社会で労働力確保のためにも女性の活躍推進が必要である。

○どんな、男女共同参画社会なのか

自殺率・過労死ともに、男性の方が多い。古い男性像が、男性自身を追い詰めていることが原因ではないか。男性の生き方も変わらないと男女共同参画が定着しない。

今の男性の働き方に女性が加わっていくような形では、男女ともに家庭での時間がない。男女双方の働き方・生き方を変えることが、あるべき男女共同参画社会である。ワーク・ライフ・バランスの推進は、企業や組織にとっても、業務の効率性を高めるうえで重要な課題となっている。

男女共同参画社会の基本的な考え方や意義について解説していただき、それぞれが新たな気づきを得ることができた。

［オリエンテーション］

班別グループワーク（自己紹介、意見交換計画作成等）

午後は各班に分かれ、自己紹介や県外研修での役割分担、現地での意見交換に向け、班ごとにテーマ決めを行った。各班では、熱心な議論が交わされていた。

【１班】自分らしさを出せる地域社会とは

【２班】ワーク・ライフ・バランスを進めるためには

【３班】ワーク・ライフ・バランス
～誰もが働きやすく子育てしやすい社会とは～

【４班】男女共同参画の視点から考える地域防災

視察１「フォーラム事業説明・施設見学」

講師：男女共同参画センター横浜管理情報課長　植野　ルナ氏

[日時]　11 月 2 日(金)　13：00～14：30
[場所]　男女共同参画センター横浜（フォーラム）
[記録]　戸塚　あや子（1 班）

組織図

男女共同参画センター横浜
- 男女共同参画センター横浜（フォーラム）　戸塚区
- 男女共同参画センター横浜南　南区
- 男女共同参画センター横浜北　青葉区

男女共同参画センター横浜　事業概要

■　事業運営の基本方針
- ・センター３館で連携し、横浜市の男女共同参画行動計画に基づいた事業展開
- ・情報、相談、学習研修の３つの機能
- ・センター３館を拠点に、地域へアウトリーチを実施

■　力を入れている事業
- ・女性の就業支援、女性リーダー育成
- ・セクシャルハラスメント、デートＤＶ防止
- ・社会的な弱者、困難な状況にある市民への支援
  （ひとり親、ＤＶ被害者、性暴力被害者、若年無業女性、非正規職シングル女性等）
- ・男性、若年層、高齢女性等の幅広い層を対象にした事業
- ・多様な主体との協働、市民活動の支援

男女共同参画センター横浜（フォーラム）事業説明

男女共同参画センター横浜（フォーラム）は、横浜市の男女共同参画センター３館を連携
（１）市民の主体的活動支援
（２）情報収集・提供、調整研究・広報啓発、学習研修、相談等の事業展開
（３）センター３館を拠点に地域へアウトリーチ

・調査の統計とデータベースの管理提供。細かい調査と集計は、女性の雇用状況を浮き彫りにし、女性の就業支援の後押しとなっている。
・同じ悩みを抱える仲間が集まり、定期的にミーティング等、セルフヘルプ運営を行う。（自助グループ支援事業）
※センター３館で４３グループ。約７４００人参加（Ｈ２９年度実績）
・啓発誌「フォーラム通信」の発行を年に３回。（広報啓発事業）

男女共同参画センター横浜（フォーラム）施設について

横浜（フォーラム）は、ＪＲの線路沿いの静かな住宅地で敷地内に公園もあり、１９８８年に横浜女性フォーラムとして開館した施設である。

玄関を入ると「フォーラム文庫・ライブラリ」が迎える。「ライブラリ」では、電話相談・貸出し等を実施。当初は女性問題の本を多数置いたが、現在は男女共同参画の視点による図書、雑誌等多種（約７万冊）を揃える。

「ライブラリ」の奥に、吹き抜けの明るい部屋がある。「フォーラム子ども部屋」である。フォーラムの講座を利用したり参加する人の子ども達を一時預かったりする場所だ。管理は、ＮＰＯ法人が行っている。相談内容や時間帯によっては、働く保育士さんの割り振りに苦労しているとのこと。

２階の「生活工房」は、間仕切りのないオープンスペースに沢山の道具が備わり、手仕事を通じた交流の場である。

３階には、女性特有の健康課題解決に対応する「フィットネスルーム」が設置される等、市民活動の心強い支援の場所となっている。

講話１「統計から考える日本の･熊本の男女共同参画」

講師：国立女性教育会館客員研究員　高橋　由紀氏

[日時]　11 月 2 日(金)　14：40～16：40
[場所]　男女共同参画センター横浜（フォーラム）
[記録]　出口　こずえ（2 班）

〔講師紹介〕
国立女性教育会館客員研究員　高橋　由紀氏
専門・・・社会学、農村研究、男女共同参画の評価研究仕事と地域の活動のつながりづくり

１.男女共同参画とは

（１）男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって、社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会。

（２）男女共同参画の検証の必要性

・１９９９年に基本法ができた時には「これから向かうべき社会」の理想的な姿が男女共同参画社会だった。
・理念があり、実態がなかった。
・基本法ができてから１９年。どの部分で参画が進み、どの部分が進んでいないのか、検証が必要な時期にきている。

２.男女共同参画の実態についての検証の材料～統計データ～

（１）定義

・英語では gender statistics　ジェンダー統計
・日本語では、「男女共同参画（推進のための）統計」と意訳
・性差別撤廃という目的の下に、国連が主導して世界的に進められている。

（２）男女共同参画の特徴

① 見えないものを見る事ができる
・無償労働（賃金をもらえない事）の見える化
・生活時間の調査により、家事、育児、介護（無償労働）への女性の貢献度が把握できる・・・統計により、熊本の女性は全国一の働き者ということが分かった。
② 長い目で見る事ができる
③ 地域を知ることができる

・国際比較
・４７都道府県比較
・市町村比較

統計の特徴

３.ミニワーク：４７都道府県を比較してみよう
～熊本県の統計を読む～

① 配布資料をもとに各自統計データを読む。
② グループになり、読んで気づいた事を話す。
③ 思った事、気づいた事を発表しみんなで共有。

【まとめ】
自分が男女共同参画社会の実態を理解して人に伝えることは難しい
➡ しかし、統計データを用いると、専門家でなくても分かりやすく正確に伝えやすい。

高橋氏より・・私達へ今後の課題として
熊本へ持ち帰り頑張ってもらいたい事（課題）
⇩
男女共同参画の必要性をみんな理解してもらえるように伝えていく。
（統計データは信用性があり、分かりやすい）

講話２「行列のできる講座とチラシの作り方」

講師：NPO 法人男女共同参画おおた理事長　坂田　静香氏

[日時]　11月3日（土）9：40～11：10
[場所]　大田区立男女平等推進センター（エセナおおた）
[記録]　株元　知子（3班）

講師紹介

福岡県飯塚出身。
２００３年から東京都大田区立男女平等推進センターの講座企画に携わる。当初は、定員割れの講座しか開催できなかったが、工夫と努力を重ねた結果、今では企画したほとんどの講座が定員オーバーとなり、平均応募倍数は３．３倍となっている。また、そのノウハウを教えて欲しいと全国の自治体やＮＰＯ、市民団体から講演依頼が相次いでおり、すべての都道府県にて講演依頼を受け、延べ１，０００回以上の講演を行った。２００４年、大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」の指定管理者となる。ＮＰＯ法人男女共同参画おおたは「エセナおおた」の指定管理者のほか、東京初、本格的な女性向け創業支援施設「パシオンＴＯＫＹＯ」を運営している。
著書に、「人が集まる！行列ができる！講座・イベントの作り方」（講談社＋α 新書）、「実例でよくわかる！人が集まるチラシの作り方」（家の光協会）がある。

人の集まらない講座の言い訳トップ３

１位　開き直り　・自分たちはいいことやっているから、いつかは報われる。
・来ないほうが悪い。
・やることに意義がある→人が集まらなければ意味がない！

２位　市民の意識が低いから　・意識変えたい系の企画のときに多い言い訳。
・そもそも意識が高い人が来ても意味がないのに。

３位　天気が悪かった　・天気が悪かったから、天気が良すぎたから。
・仕方がないよ。天気には勝てない･･･。
→原因は自分たち以外のものにあると言いたい。

番外編　地域性が違うから。
人が来ない原因はただ１つ！「企画力」と「広報・ＰＲ力」が不足しているだけ。

⬇

「企画」と「広報」は掛け算。どちらかが０なら、０にしかならない！
時間をかけるのは企画。そして、企画の良さを、どうチラシで伝えるかが大切である。

『企画力』と『広報力』向上のために

・対象者が読む雑誌をリサーチ
→表紙のタイトル・企画内容
チラシのタイトルに使える言い回しを探したり、
いま求められている企画（ニーズ）を知ることができる。
・企画する人材を増やし企画を募集する。チームで企画をする。
→アイデアが膨らむ。自分に無いものが出てくる。

・参加してほしいターゲットに近い（年齢、価値観）人の意見を尊重する。
→若い女性はこんなのが好きに違いない。年配の方はこういうのを求めているはず。
ではダメ。特に意見が割れたときには、ターゲットに近い人の意見を尊重する。

タイトル選びは集客に重要な情報

☆こんなタイトルでは人は集まらない！

●社会背景タイトル型「晩婚化と男女の行方」「変わりゆく社会と女男（ひと）」
→だから何なんだ？それがどうした。内容が分からない。

●疑問系タイトル型「ＤＶって何？」「男女参画って何？」「ジェンダーとは？」
→今、手元のスマホで調べればすぐに言葉の意味が分かる。その意味を知るために
わざわざ足を運ばない。

●認知率の低い専門用語型「メディア・リテラシー講座」「エンパワーメント」
→日常生活で使わない言葉、意味の分からない言葉があるだけで手に取らない。

●人に言えないネガティブなタイトル型「尿失禁講座」「ＤＶ被害者セミナー」
→近所の人に会うかもしれない。自分がそうだと思われたくない。自分であるということを知られたくないと思うテーマの時には『支援者』『サポーター』などの言葉を入れることで当事者が『支援者』『サポーター』の振りをして来ることができる。

「人がどうして講座やイベントに参加するのか？」
⬇
私にとって必要な情報が欲しい！ ➡ この講座を受けたらこんなことが身につく。
その講座を受けたら私がどうなるか分かる。

ゴールが分かる。ゴールが見えるタイトル。断定形もしくは体言止め。

今、求められているものは・・・課題解決型の講座

お勉強講座は人が集まらない。（「歴史を学ぶ」などは別）
国の第三次男女共同参画の基本計画の中でも、意識啓発型から課題解決型へと書いてある。

☆キャッチコピーのポイント
■子ども向け、親子もの→楽しそう！面白そう！と思わせるタイトルをつける。
■講師のセールスポイントを入れ込む。→「人気の…」「評判の…」「いま話題の…」

まとめ

①目的を出すと目的を達成できない。→集客してから目的を伝えていけばいい。
②企画の段階で対象者を絞る→年齢・性別・ライフスタイルが違うと人それぞれ価値観が違う。興味や抱えている課題が違ってくる。対象者を絞ることで『日時（曜日や時間）』『テーマ』『申し込み方法』『文字の大きさ』が決まってくる。
③対象者の心に響くゴールの見えるタイトルをつける→集客チラシでスーパーゴールを掲げても、人は興味を示さない。身近なゴールでキャッチコピーを考える。

最後の決め手は・・・『担当者の熱意と努力』

地方ではチラシよりも口コミのほうが
有効な場合もある。

視察２「エセナおおた事業説明･施設見学」

講師：ＮＰＯ法人男女共同参画おおたセンター長　東　香織氏

[日時]　11 月 3 日（土）11：20～12：20
[場所]　大田区立男女平等推進センター（エセナおおた）
[記録]　松本　由香里（4 班）

●センター概要

１９７７年に「大田区婦人会館」として開館。
２０００年に大田区立男女平等推進センター（愛称：エセナおおた）としてリニューアル。
※「エセナ」とはスペイン語で「場・場面・舞台」という意味で、「みんなが集まれる場所、集まった人全員が主役になれる場所」という思いが込められている。

●設置目的

男女共同参画社会の実現を目指し、区民が自主的に活動する場所を提供する。

●運営

特定非営利活動法人　男女共同参画おおた　設立２００３年１２月４日

●事業

第７期男女共同参画推進プランに基づき、２０１６年度から様々な事業を行っている。

①講座・講演・情報の提供
②相談事業
③交流の場の提供
④図書の閲覧・貸出し
⑤インターネットの利用

●その他

・各種講座や講演会チラシは、区の公共施設等に配布し、区民に情報提供を行っている。
・開館時間９：００～２２：００により仕事帰りにも利用可能。年末年始のみ（１２月２９日～１月３日）休館日で、誰でもいつでも受け入れる体制。
・講座、講演を受講した方々が、その後もボランティアとして参加し（現在１００人余り）、施設運営に協力している。２ヵ月毎にボランティア＆スタッフ会議実施。

●施設見学

・情報、図書コーナー
男女共同参画に関する図書、行政資料の閲覧が可能。興味深く多彩な本が選書しやすく配置され、多くの区民が訪れている。
・男女共同参画スペース
各種講座や男女共同参画に関する展示をしている。男女共同参画に関する展示がないときは、各団体による展示が可能である。

・調理室　和室　談話スペース
区主催の行事の開催時は使用料無料。有料施設の利用には「うぐいすネット」の利用者登録が必要。区内集会施設では最高の室場利用率７５％。隣接しているハローワーク利用者や小学校の放課後の利用などフリースペースで解放している。
・子ども室
保育付の事業での利用に加え、講座受講中や相談中にも利用できる。あえて託児所とせず、子ども同士で関わり合いながら成長できる場として考えられている。子ども室と相談室は外の非常階段に繋がっており相談者の安全を守る構造になっている。
・カフェおひさま
ＮＰＯの自主事業として運営されており、来館者の憩いの場所となっている。
・館内のあちらこちらの壁には物語の一場面や季節などを表現した手作りの折り紙が展示されており来館者の心を和ませている。

●感想
大田区の未来につながるプラン「誰もが尊重され、多様なライフプランを理解しあい笑顔で繋がるまち」を目指し、多くの事業が提供されていた。
そこには大田区の中で確かな存在感と信頼があり、利用者やスタッフのみなさんの強いエネルギーを感じた。
大田区と熊本県では、それぞれが抱える諸事情に違いはあるものの、知恵や工夫、又、広く人々の声を聴こうとする姿勢や共感される事業提供により多くの方々の居場所をつくることができることを今回の視察見学で痛感した。

交流「意見交換会（分科会）」

第１分科会　テーマ「自分らしさを出せる地域社会とは」

[日時]　11 月 3 日(土)13：20～14:50
[場所]　大田区立男女平等推進センター（エセナおおた）
[記録]　戸塚　あや子（1 班）

【自己紹介を兼ね地域の現状や抱える問題等をお互いに発表】
・高齢の女性が愚痴や根も葉もない嘘の情報を流す。
・益城町の婚活事業で、年齢が高めの層では女性より男性の問合せが多い。
　⇒事前研修（統計から考える日本の男女共同参画）で自殺する男性が多いと言われていたことと関係があるかも？
・女性職員が多い職場で子育てのことや夫の働き方について等、家庭の話が多すぎる。これは、男性側の考え方かも。
・震災後の各家々を訪問する時は、女性が声掛けをすると上手くいく。（時間帯によっては、男性の時もある）。

【意見交換会の様子】

【男性の役割に対する考え方等を意見交換】
・男性は自分の生活背景を見せない。しかし、これを見せないと男女共同参画は難しい。
・人手不足をなくすためには、その人とのコミュニケーションが必要。
・働きながら子どもを育てるには、沢山の協力が必要。
・地域性の違いがあるが、地域の方からサポートをしてもらうことが大事。
・お互いに助けてもらった時は、「ありがとう」と言い合えればよい。
・そもそも男性や女性という分け方より、生活者（個人）の視点で物事を考えれば良いでのはないか。
・個人での視点で考えれば、よりその人の背景を知れるのでは。

【意見交換会の様子２】

【意見交換によって導きだした答え】
・「ありがとう」が、お互いに言える関係作りができる地域社会。
・関心があるからこそ感謝が出来る。人に関心を持つ。挨拶をする。
・周囲の協力を仰ぐ（子育て等）。大切なことだから１人で無理をしない。

【意見交換会の様子３】

交流「意見交換会（分科会）」

第２分科会　テーマ「ワーク･ライフ･バランスを進めるためには」

[日時]　11 月 3 日(土)　13：20～14：50
[場所]　大田区立男女平等推進センター（エセナおおた）
[記録]　出口　こずえ（2 班）

【テーマにした理由と課題】

事前研修での意見交換計画書を作成する時に、グループディスカッションで、女性が男性に近づき合わせていくのではなく、男性も女性も共に視点を合わせ、そこに近づいていくのがグループで考えた男女共同参画である。

■「意見交換の柱・キーワード」では、
・子育て
・介護
・ワーク・ライフ・バランス
「地域の現状や課題」として、市全体としてワーク・ライフ・バランスの取組みが進められているという意見も出た。

■「課題解決に必要な事（視点）」として、女性が男性に合わせるのではなく、お互いに近づいていく事。

■エセナおおたで意見交換したい事柄、質問したいこと
・男性の育児休暇が、普及しないのは？普及させるにはどうするのか。
・先進的な取組み（育児休業）
・相談内容からみる現状、対策

【意見交換会メンバー】

【２班メンバーへのアドバイス、意見交換会】

■男性の育児休業の取得率について現状

・参加メンバーの職場での実際の取得率は、０～２人（市町村職員）といった取得率の低さに驚き、実際は取れない、取りづらいのが現状。

・職場では、男性が育児休暇を取りなさいという考えだが、収入面では男性が働いた方が高収入のため、女性が育児休暇を取得したほうがいいと思ってしまう。

■先進的な視点からの海外の現状

・中国では、日本と違いみんなが手を借りて育児をしている。視点を変えて考え、育児をするのが家族だけではなく、日本ではファミリーサポートセンターやシルバー人材等を活用し、もっと地域とのつながりを持ち、安心して子育てができる環境を創る事ができるのではないか。

・家族で話し合う前に諦めて、自分一人で家事・育児をするのではなく、家族と話し合う事で肉体的・精神的負担が減り解決できる事もあるので、まず話してみることが大切。

【エセナおおた職員全員でワーク・ライフ・バランスについて事前に考えた】

結果・・・「働きやすさと働きがいが通じ合っていること」

・頑張った所を認めて、評価してくれる事が１番！家事は労働なんだ！という認識を持ってもらう事。母親が子育てするという意識を変える。

例）旦那さんが家事をした事に対して、他の人や自分自身も褒めたが、よく考えると私は同じ事を毎日しているが人から褒められた事はないよね？とふと思った。

【まとめ】

「ワーク・ライフ・バランスをすすめるためには」・・・

・一人で悩やまない。

・視点を変え、周りの家族・会社・地域と自分を取り巻く環境と上手に付き合い、活用しながらみんなで子育てをしていく事。

・働きやすさと働きがいを持ちながら認められる事。

まず、それぞれの家庭で話し合い、合意が取れる事でワーク・ライフ・バランスが取れるようになるのを希望し、目の前がぱっと明るくなった。

交流「意見交換会（分科会）」

第3分科会　テーマ「ワーク・ライフ・バランス　誰もが働きやすく子育てしやすい社会とは」

[日時]　11月3日(土)　13：20～14：50
[場所]　大田区立男女平等推進センター（エセナおおた）
[記録]　髙木　慎一郎（3班）

１．目　的

男性が仕事、女性が育児といった意識がまだまだあり、男性が育児休業を取るにはなかなかハードルが高い現代社会のなかで、ワーク・ライフ・バランスも含めて今後どのような取組みを考えていけば改善していくのか討論を行った。

（キーワード）
・子育て
・イクメン
・先進的な取組み「ワーク・ライフ・バランス」について

２．意　見

○職場において、男性が育児休業を取れるような雰囲気ではないため、積極的に取れる環境づくりが必要ではないか。例えは上司の声かけ「○○さんは育児休業とらないの？」などが必要。

○女性と男性の意識の差がまだまだあるため、相互理解（思いやり）が必要である。

○子育てがしやすい、しにくいと地域でも格差があると思われる。そのため、誰もが子育てしやすい街づくりを社会全体で作る必要がある。

○女性だからとか男性だからということではなく、垣根を取り払って、出来る人が出来ることをやるといった役割分担も必要。

○日本人特有なのかもしれないが、長時間仕事をした人が評価されがちなため、労働超過によりワーク・ライフ・バランスが崩れていると思われる。働き方改革をもっと進める必要があると感じる。

○職場においては、上司の圧力などにより、休暇がとりづらい環境にあるため、もっと休暇がとりやすい環境を作る必要がある。

○イクボスを増やす取り組みとして、職場に専門員を派遣し、管理職の研修を行ってはどうだろうか。または女性の管理職をもっと増やすことで、女性の視点から変えていく必要があるのでないだろうか。

３．まとめ

分科会での意見交換の中で、女性は育児、男性は仕事といった性別での役割分担意識がまだまだ深く根付いていると感じた。また、話を聞いてみると、休暇をなかなか取れる環境でないことも分かり、職場等の環境づくりの重要性をあらためて感じた。

誰もが働きやすく、子育てしやすい社会にするためには、職場において、ワーク・ライフ・バランスを考慮できる上司の育成や環境づくりはもちろんのこと、一人ひとりが思いやりの心を持ち意識することが必要だと思われる。

交流「意見交換会（分科会）」

第４分科会　テーマ「男女共同参画の視点から考える地域防災」

[日時]　11 月 3 日(土)　13：20～14：50
[場所]　大田区立男女平等推進センター（エセナおおた）
[記録]　河野　史治（4 班）

【テーマ設定の経緯】

私たち４班のメンバーの半数以上が、熊本地震で震度６強以上を経験した。現在は復興から発展へと向かっているが、地震発生当時のことを考えると、様々な課題が見つかり、特に女性や子ども、高齢の人、障がいのある人への配慮が不足していたことが大きな課題として挙げられた。

これから先、いつ、このような災害が発生するか分からない。災害が発生した時、少しでも多くの人を救うため、東日本大震災や熊本地震などの経験を踏まえて、男女共同参画の視点に立って、地域防災の現状の把握と課題分析を行い、その課題をどう解決していくべきかをメンバー全員で共有したいと思い、このテーマを選択した。

【災害時の現状と課題】　※支援者と被災者・避難者別、現状と課題ごとにまとめる。

〇支援者

(防災対策)

・災害対策本部に女性が少ない➡これで、女性の視点に立った支援ができるのか。
・防災訓練は行っている➡しかし、大災害を想定した訓練内容になっているのか疑問。
・自主防災組織の機能は➡区長や消防団など特定の人に任せているような感じ。市民を巻き込んだ自主防災組織に至っていないのでは？

(避難所)

・避難所の対応➡行政職員等が常駐したが、実態は避難者を誘導するだけ精一杯で、女性や子ども、高齢の人、障がいのある人の意見や相談を聞くことができなかった。

〇被災者・避難者

（トイレ）

・障がいのある人・子ども・高齢の人の中には、和式トイレが使用できない人がいた。
　➡そのため、避難できず半壊した家屋で過ごさざるを得なかった。
・食事は備蓄品や民間企業、支援自治体などからの支援により、どうにか解決できる。
　➡しかし、排泄の問題がある。トイレに人が殺到し、とても劣悪な環境が続いた。

(防犯対策)

・災害発生後は、性犯罪などの女性被害が増えると言われている。
　➡阪神淡路大震災の時には、実際にそのような事件が発生したが報道されなかった。

【課題解決に必要な視点】

(防災対策)

・各自治体の男女共同参画担当課が、防災担当課との連携を図り災害対策本部に限らず、自主防災組織などにも女性の積極的な登用を図る必要がある。

・女性リーダーは必要不可欠である。

・防災訓練においても、様々なケースを想定して訓練を実施する必要がある。また、避難ルートを作成しておくと良いのではないか。

・災害が発生した時、それぞれ居場所が違うため避難の仕方が変わってくると思われる。

(避難所)

・熊本地震発生後の避難所の設備に問題が多かったのは明らかで、避難所等の設備の見直し。特に男女別の更衣室・トイレ、授乳室など、早急な対応が必要である。

(トイレ)

・トイレの問題を解決するのには、簡易トイレ※が有効である。自分の排泄くらい自分で処理できる社会になるべきと考える。※１００円均一などでも販売されている。

(防犯対策)

・災害発生時の性犯罪を防止するためにも避難所従事者は女性と男性が必ず常駐し、定期的に見回りする必要がある。その際には困りごとなどないか声かけするとよい。

【まとめ】

熊本地震を経験した私たち４班と、東日本大震災を経験したエセナおおたの方々との交流では、様々な課題やその解決策について意見交換することができた。事前研修では思いつかなかった「簡易トイレ」の話など、とても貴重な話を聞くことができた。

私たち一人ひとりが大災害を経験し苦しんだことや、分科会での気づきを踏まえて、自分ができることの役割をあらためて認識し、今、しっかりと対策を図り、次世代へ引き継いでいけるような地域防災を推し進めていく必要があると感じた。

講話３「女性の視点の防災と復興」

講師：減災と男女共同参画研修推進センター共同代表
早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員　浅野　幸子氏

[日時]　11 月 3 日(土)　16：00～17：30
[場所]　大田区立男女平等推進センター（エセナおおた）
[記録]　戸塚　あや子（1 班）

✧　なぜ女性の視点と防災と復興なのか？

講師の浅野幸子先生は、熊本地震後９日目に熊本の地に足を踏み入れ、実際に避難所での被災者の状態を見たり声を聴かれたり体験した。そして、そこから見えてくる大規模災害における課題やその内容について詳しく教えていただいた。

課題の主な内容の中で特に印象的だったことについて記すと、一貫して語られたのは、現場の声を誰が汲み上げ誰が解決するかという事だった。若い行政職員に声を上げても、はっきりとした返事や答えが返ってこない。現場での行動・対応について、きちんと指導を受けないで災害現場に送り込まれている。（それを、「マニュアル人間では困る」と表現された。）

なぜ、その様な問題が増築するのか、現場では被災者と行政の間の話合いが出来ていない。コミュニケーションが取れていない。すると現場は、問題解決どころか空回りとなる。性別役割の過度な負担や要求と、それに答えようと追い込まれ、追い詰められ動けなくなっている人の困難や課題に気付いても、持って行き場所が無いという事になる。その事にどう対応するのか？

災害時に弱い立場に追い込まれるのは、女性や障がいのある人、高齢の人等のハンディを持つ人達。ここで必要なのが、現場の声をきちんと聞きコミュニケーションが取れて上部に正しく連絡出来る人。女性であれば女性のことをよく知る女性職員。その問題を対策本部で汲み上げる女性幹部職員である。さらに、意思決定に関わる男女比を偏らないようにすることも大切なことだと話される。

このように、被災者の困難課題に向き合うためには、男女別の傾向を知りつつ救援活動・支援をするために、男性・女性の防災リーダーを置くことが必要である。大規模災害という困難に遭い、多くの課題に直面した時こそ、男女共同参画が必要だと先生の講話から理解する。

✧　阪神淡路大震災における死亡者数

６４０２人（内訳　女性３６８０人・男性２７１３人・不明者９人）

死亡原因

① 建物倒壊による圧死

② 焼死（火事）

※早朝の震災であり、女性は食事の用意をしていた。

✧　阪神淡路大震災後の仮設住宅における孤独死の男女比

男性　１６１人（６９％）

女性　　７２人（３１％）

※アイデンティティをなくした場合、夫はどうなるか？

女性は、しゃべることで発散・消化する。

✧　スフィアプロジェクトとは？

人道支援活動を行う国際機関やＮＧＯ等によるボランタリーな活動で「災害や紛争の被災者には、尊厳ある生活を営む権利があり、援助を受ける権利がある」こと、「災害や紛争による苦痛を軽減するために実行可能なあらゆる手段が尽くされるべきである」という２つの権利及び理念に基づいている。

講話4「イクメンとイクボスが社会を変える！」

講師：ＮＰＯ法人ファザーリングジャパン理事 東 浩司氏

[日時]　11月4日(日)　9：00～10：30
[場所]　ＴＫＰスター貸会議室川崎駅前
[記録]　出口　こずえ（2班）

【講師紹介】
名古屋市出身、大阪大学人間科学部卒、神奈川県伊豆市在中
家族（妻・娘１１才、６才）
本業は「パパ」
親になることに消極的だった、「２４時間、３６５日働け！」の会社で教育担当等６回の転職を経て長女の誕生をきっかけに働き方を見直す。父親育児ＮＰＯに入会して働き方が変わる。現在は研修講師で独立。

★イクメンは新しい時代の男の生き方
・イクメン＝育児を主体的に行う男性
・２０１０年の流行語大賞☆ＴＯＰ１０☆
・男の育児は「国家事業」
・イクメンの反対語は？・・・育児なし

時代が進むにつれ、男の育児を明るくしよう！と「パパスクール」を全国に展開
そして、現在は・・・イクメン→イクジイ→<u>イクボス</u>＊「育児」に限定しない

父親が変われば、
家庭が変わる、
地域が変わる、
企業が変わる、

そして社会が変わる

イクボスの定義

職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランス（仕事と生活の両立）を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自ら仕事と私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）のこと

イクボスプロジェクト・・・<u>イクボスが職場と社会を変える</u>＊育てるボスが理想の上司

現状・・仕事が忙しくて育児ができない、育児したくても職場が変わらないと達成できない

男性が育児休業をとれない（とらない）理由

１位　仕事の代替要因がいない

２位　経済的に負担となる

３位　上司に理解がない

社会背景・・✔女性活躍推進　✔働き方改革　✔少子化社会への対応

この課題をもとに、全国の自治体に広がるイクボス宣言

自治体ランキング・・熊本県は２２位！（回答３７件中）

【育児をする事で高まる仕事力！】

・タイムマネジメント

・段取り力

（赤ちゃんをお風呂に入れる段取りをする事で仕事の段取りも身につく）

・リスク管理

・ストレス耐性

・人材育成力

・市民感覚

・感情豊かに（ＥＱ）

☆育児休業後には、仕事能率も高まる！

【まとめ】

女性の活躍推進等の社会変化に伴い、またその鍵は「男性の意識改革」。

ワーキングマザーの（仕事・育児・家事）＋介護と思うように進めない環境を、助けて支えてくれる男性（家族）が女性にとっても社会にとっても大事な存在。

男性の「家庭進出」をもっともっと広げ、働いて家族の為に頑張る男性にもワーク・ライフ・バランスの環境を整え、男性の働き方を柔軟にできる社会が少しずつでも大きくなって欲しいと感じた。

講話５「男女共同参画視点での地域づくり」
～地域での「男性活躍」のススメ～

講師：市民社会パートナーズ代表　庄嶋　孝広氏

[日時]　11 月 4 日(日)　10：40～12：10
[場所]　ＴＫＰスター貸会議室川崎駅前
[記録]　田嶋　智子（4 班）

【講師紹介】庄嶋　孝広　氏
様々な肩書を持ち、多様な立場から、地域に関わる人を増やす取組みを行う。
●民間と公務の二刀流
市民社会パートナーズ代表、東京都大田区非常勤特別職、地域力連携協働支援員
●チクメン（地区メン）
大田区小学校ＰＴＡ連絡協議会会長、大田区青少年委員、青少年対策新井宿地区委員会副会長、新井宿六丁目町会親和会会員、おおた区民活動団体連絡会共同代表

１．熊本県は全国と比べて女性リーダーが少ない！
～地域活動における男女共同参画の現状～

●平成２９年度：自治会長及びＰＴＡ会長に占める女性の割合
全国平均　自治会長　５．４％　ＰＴＡ会長　１３．８％
熊本県　　自治会長　２．６％　ＰＴＡ会長　　７．５％
●平成３２年度目標：自治会長に占める女性の割合
国の目標　　１０％（第４次男女共同参画推進計画）
熊本県の目標　５％（第４次熊本県男女共同参画計画）

２．「仕事での女性活躍」と「地域での男性活躍」の両輪が必要！
～地域活動における男女別の課題～

●ボランティア活動の行動者数は女性が多い。
●男性は長時間労働者の割合が少ない地域でボランティア行動者率が高い傾向。
（平成２７年度版　男女共同参画白書）

↓

●女性の課題：『質的向上』を目指す！
⇒指導的立場（長やリーダー）につく女性、意思決定過程に関わる女性を増やす。
●男性の課題：『量的向上』を目指す！
⇒年齢を問わず参加者数を増やすことが必要。

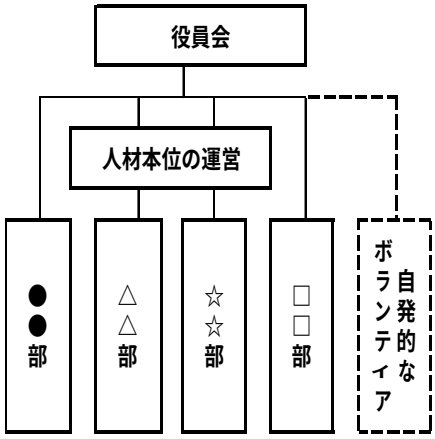
３．内容と仕組みを変えて人が集まる地域活動にしよう！

本来のボランティアの意味は「自分から進んでやる」だが、実態はそうであるか？

現状：義務的なボランティアになっているため、担い手確保が難しい。

対策：①楽しさややりがいをもって参加できる「人材本位」の運営に変える。

②自発的なボランティアの入口を増やす。「できる人ができるときに、できることを」の原則。



４．男性が地域活動に参加しやすくなる仕組みをつくろう！

●地域への足場となる「男性コミュニティ」を増やす。

⇒子どもを通じたコミュニティや、趣味を通じたサークルなどの自然な人のつながりを地域活動へつなげる。

●新しい人材を地域につなぐ「つなぎ役」を増やす。

⇒すでに地域で参加している人が「つなぎ役」となり地域の人材をつないでいく。

５．講師が実践！　～地域に参加する人を増やすための取組～

●区のガイドブック「おおた地域力発見ガイド」を作成し、地域情報の見える化。

⇒区内で行われている地域活動を掲載し、区民への活動促進を図った。

●団体のリーダーを「つなぎ役」へ育成

⇒様々な団体の地域リーダー層を対象に、地域に新しい人材をつなぎ、他団体との連携を図る「地域のつなぎ役」を発掘、育成する１０回講座を開催。

【まとめ】

多くの方に地域に参加してもらえるための仕組みづくりとして講師が行った工夫をたくさん学んだ。『地域には様々な職能・技能をもつ人がいて、まさに「人材の宝庫」であり、その能力を地域で発揮するチャンスがないことは、宝の持ち腐れである。』との講師の言葉に、まだ見ぬ地域の可能性を感じると共に「地域に眠っている人材を掘り起こすこと」が地域活性化やまちづくりにつながることを再認識し、それこそが地域課題の解決につながる行政の重要な職務であると痛感した。

解団式

[日時]　11 月 4 日(日)　12：10～12：20
[場所]　ＴＫＰスター貸会議室川崎駅前
[記録]　髙木　慎一郎（3 班）

（１）主催者挨拶（熊本県男女参画・協同推進課課長　真田　由紀子）

三日間大変お疲れ様でした。

移動・付き添いに関して、至らない部分があったことについて、反省している。また永田団長には、研修中、終始気を使っていただいたことについて感謝している。

今回の研修で、多くのことを学ぶことができたと思う。

研修を受けて終わりではなく、ここからが始まりだと思う。自分の分野に合ったものを見つけて、これから地域の方々に伝えてほしい。そのことが皆様の意識向上に繋がっていく。

今後の成長を楽しみにしている。最後まで事故のないように、気をつけて帰っていただきたい。

（２）団長挨拶（永田　尚稔）

今回の男女共同参画の研修に参加し、色々と勉強となった。自分は、今まで男女共同参画とまったく違った考え方をもった人間であった。

今回の研修を受けて、最低限ご飯は作りたいと思う気持ちになった。

大変勉強になった、地域に戻っても頑張りたいと思う

事後研修

[日時] 1月11日（金）10:00～16:00
[場所] くまもと県民交流館パレア　会議室１
[記録] 猪俣　広恵（熊本県）

[事後研修のメニュー]

１　開会（男女参画・協働推進課長挨拶）･････････････････････････････ 10：00
２　地域リーダー研修修了者による活動事例紹介･････････････････････ 10：05
　　田川 美穂氏（平成２８年度修了者）、橋永 高徳氏（熊本県つばさの会会長）
３　報告書タイトル決定･･･ 11：05
４　県推進制度について･･･ 11：40
５　自主研修報告会･･･ 13：00
６　意見交換会･･･ 14：45

[講話]

平成２８年度修了者で県男女共同参画推進員の田川美穂氏にお越しいただき、地域リーダー研修後に行ってきた活動や一歩踏み出す大切さについてお話しいただいた。

また、過去の研修終了生からなる熊本県つばさの会からは、会長の橋永高徳氏にお越しいただき、研修後の活動や、会の活動についてお話しいただいた。

[報告書タイトル]

「Ｈｅｙ！Ｈｅｙ！Ｈｅｙ！未来へよ～そろ～３０」に決定した。

[自主研修報告会]

県外研修後、各研修生が各地域や職場、家庭で研修の学びを生かした活動内容について、１人３分程度の発表を行った。自主研修を通して、気づきや理解が深まった様子で、県外研修での学びの振り返りや新たな考えが芽生えているようだった。

[意見交換会（今後の活動について）]

各班に分かれ、各自で事前に考えた企画のアイデアを出し合い、班内の意見を一つにまとめた。その後、各班の意見を発表した。各班とも、男女共同参画社会の実現を目指すにあたって、素晴らしい内容だった。全体で多数決をとった結果、次年度のパレア事業『ｉｎパレアワークショップ』で「わたしらしく輝く為の最初の一歩ＷＳ」を開催することに決定した。

県外研修の一コマ

１日目の夜、永田団長の提案のおかげで全体の交流会では、職場や我が家の男女共同参画の会話で盛り上がり、研修初日の緊張もほぐれ、参加者同士の距離が縮まった。

２日目、私たち４班は、地域防災についての意見交換を行い、熊本地震や東日本大震災の経験から避難所での防犯対策やトイレの課題、いつ起こるかわからない災害に男女共同参画の視点からの対策など語り合った。 そして、夜、４班のメンバーと楽しい、美味しい、コミュニケーションの時間を過ごし、みなさんとの心がグーンと近くなった。それぞれの思いを語り合って、笑って、お腹も心も満たされ、楽しいひとときでもあったが、そのような中、近くの飲食店で火災が発生し、消防車に救急車、パトカーのサイレンが鳴り響いていて、災害はどこでも遭遇することを実感した。いろいろなことに気づかせてもらった学べる研修を企画していただいた熊本県に感謝し、これからも多くの地域のリーダーが輩出されることを祈りたい。

岡田　恵（４班／天草市）

研修外で印象的だったことは、２日目の１班での懇親会かなと思う。当初２日目の夜は計画していなかったが、班員の方にお声かけいただき、１班での懇親会となった。１日目の全体懇親会も非常に楽しかったが、少人数ということもあり大変深く濃い話が出来た。年齢に驚いたり、素敵な息子さんを育てた教育方針に感心したり、お世話になっている人が共通の知人だったり、店員さんの母親の故郷が人吉だったり（我々の怒涛の肥後弁を聞かれ、もしかして熊本ですか？と尋ねられ発覚）等々・・・。その中でも１番驚き感銘を受けたのが、色々話したけれども最終的には「周囲にありがとうと素直に言い合える心、関係性」が大事だよねという結果に落ち着いた時、その終着点は正に当日エセナおおたの方と話し合ったテーマ（自分らしさを出せる地域社会とは）の答えになっていると気付いた時だった。今後、男女共同参画社会づくりのリーダーとして活動していく上で、当たり前のことだけれども非常に重要で、当たり前だからこそ疎かになりがちな原点に今一度気付くことが出来たなぁと思った。立場も境遇も全然違うけれど、同じ原点を持った多く仲間が出来たことは自分の人生で確実にプラスになると感じている。

河野　彰慶（１班／山鹿市）

個人レポート

研修生ひとりひとりの、
研修についての感想や想い。

１班

男女共同参画の視点

藤原　良弘（熊本市）

私の仕事は対話をベースにしたチームづくりや、一人ひとりに合った働き方改革の支援であるが、クライアントのある女性経営者から「女性がイキイキと活躍する為の働き方」をテーマにしたワークショップの開催を依頼されたことがキッカケで、今回の「男女共同参画社会づくり地域リーダー育成研修」を知ることなった。この研修に参加するまで、私は男女共同参画＝男女平等というふうに思い込んでおり、故に男女共同参画という言葉自体が、既に男女の違いを表現しているのではと、矛盾を感じる程度の意識しか持っていなかったが、それが大きな勘違いであることに、今回の研修を通して気づかされたことは大変幸運だった。

だからと言って、男女共同参画とは何かを完全に理解できたという訳ではないが、これまでの社会的、文化的な慣習による男女の役割り付けに疑問を持ってみるという意識が生まれたことは、私のこれからの人生に多いに役立てることができると感じている。

研修により男女共同参画という新しい視点を増やせたおかげで、家庭や仕事場において、様々な人の考えや出来事に対し、今までより幅広い解釈や意味付けが可能になった。これは私にとって非常に大きな収穫であり、男性又は女性としてではなく、自分とは違う価値観、使命、役割を持った人として捉えることで、自分が自分らしく、相手もその人らしく周りに貢献できる社会につながるという考えに、これまで以上に自信をもつことができたからだ。

例えば職場において、男だからとか女だからでその人を判断するのではなく、その人の能力をきちんと見極めて判断することが大事だということは非常に当たり前のことだと思う。しかしそういった一人ひとりの個性や能力を大切にするという至極当たり前のことが、社会的、歴史的、文化的につくられたジェンダーによって忘れさられてしまい、再び男女共同参画という言葉を通して再認識されるようになったと考えるならば、やはり男女共同参画という考え方や活動は非常に意味があり、必要不可欠なものであると思う。そこに気づけただけでも、今回の研修は私にとって非常に有意義なものである。

しかし大事なのは研修が終わってからどう行動するかである。今回の貴重な気づきを眠らせないよう、仕事場や家庭で一つづつアウトプットしていけるよう取り組んでいきたいと思う。

最後に今回の研修を通して出会うことができた、県職員や講師、研修先施設職員の方、そして研修生の皆さんに心から感謝したいと思う。

研修に参加して

宮島　日登美（山鹿市）

現在、私は５歳と２歳になる２児の子育てをしながら勤めている。これまで産休・育休制度を使い同じ職場で勤務継続しており、短時間勤務、保育園等の社会の支援と家族の協力を得て、仕事と家庭の両立が出来ている。

私にとって男女共同参画とは、ニュースや新聞等で表面上目にする程度のものであったが、地域リーダーとして活動していく勉強をする目的で集う方達と一緒に研修を受講して、私自身の理解を深めながら男女共同参画に携わる事の大切さと、仕事や育児をしていく上で、地域や家庭に根差した社会づくりを目指して活動を行いたいと思い参加を希望した。

施設見学では、そこで実施されている自助事業等が全て男女共同参画と綿密に繋がっており、また、男女共同参画社会づくりに奮闘されている講師の方々の素晴らしい講話を沢山聴く事が出来、これからも勉強を積重ね外に発信していきたくなる研修となった。その中でも事前研修のオリエンテーションで決定したテーマの「自分らしさを出せる地域社会とは」につ

いて県外研修２日目の意見交換会をした際、私は大切な核となるものがある事に気付いた。

それは、「お互いに日常生活の中で関心を持ち感謝を口にする」である。日々の積重ねは忙しい毎日を送る私達には見えなくなりがちであり、家庭生活においては当たり前になる。しかし、そのままでは家庭生活は潤わない。お互いに関心を持つようにすれば、自然と感謝や心配等の相手を労わる言葉が出てくる。それが相手を思いやり、お互いの日常が充実していく事に繋がるのだと思う。仕事においてもそれは同じで、お互いに関心を持ち言葉掛け等をする事で、人間関係が円滑にいくのは勿論の事、業務においてもサポートしやすくなり、今迄以上に積極的な職務の遂行が出来るようになるのではないだろうか。

家庭と育児と仕事は、多くの人が環境等の課題を抱えていると思う。私は研修で学ばせて頂いた事を、自分の住む地域や家庭・職場で悩む方の為に情報を発信する事で、男女共同参画社会づくりの活動に今後努めていきたい。

最後に、この様な機会を頂き充実した楽しい研修をサポートして頂いた山鹿市役所職員の方々をはじめ、研修生の皆様に深く感謝申し上げます。

地域リーダー育成事業
県外研修に参加して

戸塚　あや子（益城町）

研修１日目の横浜は、人口３７０万人、１８区を抱える巨大都市。今回研修させて頂いた「男女共同参画センター横浜フォーラム」のある戸塚区には、２７万８９７５人の人が暮らす。この大人数の中で、家に籠っている人を先ず外に出そうという趣旨で「男女共同参画センター横浜」の３館を始められたと聞いた。それが、２０１７年度は「来館者８９万人・講座実施回数３３００回・講座参加数８８万人」となっている。招致には、気が遠くなるような努力があったのだろう。

研修２日目、１日目に疑問を持った、事業や講座・イベント等への招致がどの様になされているかを、「ＮＰＯ法人男女共同参画おおた」の坂田静香先生の講話から知ることが出来た。チラシのタイトルに「？」の質問はいけない。対象者の立場に立つこと。参加型などとチラシや広報に強調しない。さりげなく、対象者の心を掴みゴールがわかるタイトルにすること等々。

研修全体を通じて心に残った言葉がある。１つは、「エセナおおた」での交流意見交換時「男女が平等でないと感じる、または平等でなくなると思うボーダーラインは？」に対しての東センター長の速答、「それは、自分の中にある。」思わず目を見開いた。また、「男女共同参画とは、マイノリティであるが、世の中のいろいろな事に関係するものである。」ということ。これらの言葉は、今回、研修に来てこその収穫だと思う。そして、再認識したのが、浅野幸子先生の「災害困難は、平等には来ない。」という事。男女・老若・障がい・仕事・家庭、それぞれ違う所で、人は生きているのだから。そのことも含め、講話をされる先生方の下調べ、事前勉強、取り分けその統計力の質と量の多さと分析に驚き納得する。

最後に、今回の県外研修で明確になったことは、災害時にこそ必要なのは、人が持ち合わせている社会性であるコミュニケーション能力と、それぞれ持っている男女共同参画力の活用であるということ。また、熊本地震を経験して学んだことは、如何なる災害や困難が降りかかった場合でも、そのことに対して、適応して行く適応能力が必要であること。災害復興のためには、自分自身、個人にできることを足元から積み上げて行くという持続力が必要だということ。人には元々、生き抜こうとする力強さ、復元力が備わっているものだと思う。

人は、いろいろな災害がある度に、立ち上がり強固になり蘇ってきている。男女共同参画の推進は、きっと、もっと確かな新しい復興の後押しになるはずである。

研修に参加して

澤永　智子（八代市）

昨年の４月に男女共同参画推進室のひとりとなり、「来年度はリーダー研修に行ってね。」と、予算要求時である１１月頃、室長からお話をいただいた。それからはや１年。

男女共同参画の言葉の意味さえまだ理解できていない自分が、研修に参加して何かを学べればという思いで県外研修へ参加した。

研修中、５人の講師の講話を聴いたが、その全てが興味深い内容だった。

初日、横浜市男女共同参画センター横浜「フォーラム」の施設見学・事業概要説明後、国立女性教育会館の高橋さんによる統計に関する講話では、統計調査結果の数字が、客観的に現状を示し、男女共同参画統計を作成するとさまざまな課題が見えてくるということを知った。

２日目は、東京都大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」での坂田さんの講話は、チラシ作りを初めて行う私にとってはうなずくことが多く、イメージ、アイデアがなかなか浮かばず、いつも苦労しているので少しでも学ぶことができたらと必死にメモをとり、話を聞いた。また、熱く話していただく姿に、私たちのためにありがたいと感心した。

昼食後、「エセナおおた」のスタッフ、運営ボランティアの方々と班ごとのテーマを設け、意見交換を行い、その後、「女性の視点の防災と復興」と題して減災と男女共同参画研修推進センター共同代表浅野幸子さんが講話をされた。東日本大震災や熊本地震の災害対応状況を通して、男女共同参画の視点から避難所運営をする必要性、災害対策本部に女性を入れて各避難所へ指示を出せるようにすべきという話をされ、なるほどとうなずくばかりだった。

最終日は、ＮＰＯ法人ファザーリング・ジャパン理事の東浩司さんの講話で、実体験を交えた話で、とても軽快で面白く、ワーク・ライフ・バランスの必要性がよく理解できた。共働きの我が家にも、ワーク・ライフ・バランスをもっと推進させていこうと、心の中で誓った。

市民社会パートナーズ代表の庄嶋孝広さんの地域づくりにおける男女共同参画推進の話は、様々な場面に男女共同参画の視点が必要であるということを改めて知った内容だった。また、女性だけでなく男性の活躍も地域づくりにおいては大切ということも学んだ。

この研修で気づいたこと、学んだことを少しでもこれからの男女共同参画推進室の仕事に活かしていけたらと思う。

最後に、この研修で出会った、研修生のみなさん、お世話になった県の職員の方々に「ありがとう」を心から伝えたい。

精一杯楽しく行動する

河野　彰慶（山鹿市）

本研修に参加させていただき、全ての参加者、講師の方と深くお話することは出来なかったが、皆さんそれぞれの立場や状況で自分らしく活躍されているなぁ!!と非常に刺激を受けた。「自分のしたいこと、できることを精一杯楽しくしている」行動や実績は、人の気持ちを大きく動かすことが出来ると知れたことが、本研修の１番の収穫だと思う。

そもそも、したいことやできることを探す前に、私は今年度４月に男女共同参画の部署に異動し、半年間事業を運営し、本研修以外の研修でも色々学ぶにつれ、「男女共同参画」の難しさや漠然さを強く感じていた。結局、自分は何をすればよいのだろう、この事業を今後も継続することに意味があるのだろうか色々と悩みつつあった。ＬＧＢＴ等性的マイノリティの方がいるように、最早「男女共同参画」と言う言葉自体が性別に捉われているのでは？とまで思うようになっていった。

その様な状態で研修に参加させていただいたが、どの研修も素晴らしく、自分の今後に活かせるものばかりだった。特に、エセナおおたの意見交換会で、センター長の東氏が、その方の

背景を知り、その方に何が必要なのか、自分（私の立場で言うならば行政）はどういった支援が出来るのかを考えることこそが男女共同参画ではないかと話されていて、非常に感銘を受けた。自分が探していた方針が見つかったような気がした。行政職員としては、とても当たり前の考えだが、性別だけでなく、「その人自身」を見ることの重要性を再認識できたと思う。さすがに全市民一人ひとりの背景や状況を知り、最適で細やかな支援をするのは実現困難だと思う。まずは、市民の方が暮らしやすくするため、例えば育児中で就労を希望されている方、誰もが働きやすく活躍できる職場にしたい方等で括った際、何が足りなくて何を求めているのかを知り、着手できることから何でもやってみたいと考えている。

これから更に研鑽し、仕事上でも私生活上でも「河野はしたいこと、できることを精一杯楽しくしている」と思われ、人の気持ちを動かせるような人間になりたいと思う。研修に参加させていただき本当にありがとうございました。

研修で得たもの

田上　恵美（益城町）

男女共同参画社会基本法を読むと、理想ばかりかかげた内容で絶対ありえない内容だと異動した時に感じた。その後、熊本地震で異動前の部署に戻り、男女共同参画の仕事と離れてしまったが、昨年の異動で再び担当になった。平成２９年地域リーダー研修を受けた一般研修生の方が、職員も受けた方がよいと意見があったため、今回、研修に参加することを希望した。

統計から考える男女共同参画・女性の視点・男性の視点・チラシの作り方・地域づくりと様々な視点から男女共同参画を学ぶことができた。私の視点が特異なのかもしれないが、今回講話をいただいた女性の方々は、自分に降りかかってきた逆境を跳ね返し、プラスに持っていくパワーを持っていると感じた。強さの中にやさしさもあり、人として同性として見習うべき点が多かった。男性の講師の方々は、優しそうな方ばかりでやりたいことを素直に実践実行されていると感じた。この研修で出会った講師の方々をとても慈悲深く魅力的で前向きな存在だと感じた。

視察見学した二つの施設についても、様々な職員の工夫があり、興味深かった。地震の影響で公共施設の建て直しを検討している町にとって、とても参考になった。施設の中で印象に残っているのは、手作りで作られた折り紙のタペストリー。四季折々に変わる折り紙が住民の方々を楽しませているとのこと。折り紙のある施設は、古かったが人の知恵によって、多くの人を喜ばせていることに感動した。また、縁があってその施設の理事長には、益城町の職員研修にきていただいたが、その時にお渡しした漫画「四賢婦人物語」がその施設の新刊コーナーに展示してあり嬉しかった。

事前研修で、鈴木教授から「いま、なぜ、どんな男女共同参画なのか」という講義を受けた。その時に率直に感じたことは、男女のバランス・家庭や地域のバランス・社会のバランスをとる事が大事だということだったが、研修を受け、そのバランスを取るには一人一人が「相手を思いやる優しさや強さ・実践実行する力・喜ばせること」が大事であるという事だった。

男女共同参画の担当になったばかりの時に、ある職員から「復旧・復興の大事な時期になんで男女共同参画なのか？復興の仕事を手伝ってほしい」と言われたことがある。私もその職員の気持ちはわかる。私も復興が一番なのになぜかと思っていた。しかし、心のバランスを保つには、男女共同参画の視点での復興を一番重要に考えなければならないと震災後、多くの職員・住民の方々を見て感じている。どんなに施設や道路がきれいになっても人の心のバランスが崩れていたら、復興と言えるのだろうか？ハード面とソフト面のバランスが町の熊本県の復興を後押しするのではないかと考える。

２班

学びから行動へ

切通　陽子（荒尾市）

今回の研修へ参加を誘われた時、２泊３日でしかも関東での研修ということで、一番は子ども達の事を心配し悩んだが、仕事と家事と子育てに追われていた私に、何か変われるきっかけになるのでは、との期待と、夫の「こんな機会はないから言って来い」という言葉と、そして職場の上司の理解もあり、参加することを決心した。

結果、参加して本当に良かった。

「男女共同参画」というと、どこか自分とは関係のない、遠くのものと考えていたが、この研修で学び、そうではないことに気づかされた。

どの講師のお話も大変興味深く、とても刺激的だったが、特にエセナおおたは、以前から職場の研修や本で拝見していたので、そこに直接訪問できるというのは、とても嬉しかった。講師の坂田先生がおっしゃった「まずは企画ありき！」という言葉は耳が痛い思いをしたが、おっしゃることが全て腑に落ちる事で、職場に持ち帰り、これからの事業に取り入れ実践していきたいと強く思った。それからエセナおおたの職員さんとの意見交換会では、皆さん仕事に対して誇りをもって取り組まれていることを感じ、これまでの自分の仕事に対する考え方を改めて振り返ることができた。また、意見交換のテーマであった、「ワーク・ライフ・バランスを進めるには」においては、それぞれの家庭で様々な形がある、まずは話し合い、お互いに認め合うことが大事だということを学び、ワーク・ライフ・バランスを進めるヒントを得ることができた。帰って早速、夫と話し合うことができ、できる所から改善中である。

また、ファザーリング・ジャパン理事の東先生の研修では、「イクメン・イクボス」という切り口であったが、マイナスな言葉をなくすことや“人は簡単に変われない”からやってみる、そして“習慣化”することなど、女性の私も、自分の行動・考えを見直す良いきっかけとなり、今回の研修で学んだことを、できる事からまずは行動し、それを習慣化できるよう、早速取り入れようと思う。

今回の研修が終わって、職場での会話やテレビ、一つ見るのにも「男女共同参画」を意識するようになり、改めて今回の研修での学びが自分自身にいかに影響を与えているか、しみじみと感じている。そして、この研修を一緒に過ごした研修生の皆さんは意識が高く、様々な立場からの参加だったので、とても刺激を受けた。共に学べたこと、出会いに感謝します。ありがとうございました。

“参画”と“参加”

玉屋　宏進（荒尾市）

平成３０年度男女共同参画地域リーダー県外研修を通して、２つの言葉が強く印象に残った。「参画」と「参加」だ。

「参画」とは、、“自ら主体性を持って取り組んでいく事”であり、「男女共同参画」の活動においては、自ら積極的に取り組んでいくことが大切であるとの話しであった。これまでの自分自身を振り返ると、男女共同参画の意識よりも、ただ法律が変わったから、皆がそうしているからと言って、育児休暇制度等、さまざまな制度を受け入れてしまっていた。本研修を通じて、男女共同参画の活動に関わる方々と接し、これまでの価値観が大きく変わった。男女共同参画には、一人ひとりが積極的に関わっていくことが大切であり、そうすることで、初めて男女共同参画社会の実現に繋がっていくということだ。ただ、何かを受け入れていくだけでは何も変わらない。自ら行動し、男女共同参画について取り組んでいきたいと思った。

「参加」とは、どんな活動においても男性・女性、さまざまな人々の参加が不可欠だという

ことである。本研修で、震災時の対応や日本と海外のオムツＣＭの比較を講習で学んだ。どちらも担当が男性のみであったため、女性に対するケアが足りず、様々な問題が発生していた。おそらく、男性が女性を無視していたわけではないと思う。きっと女性目線にたって考えようと試みたに違いない。しかしながら、限界があったのだと感じた。男性が女性目線で物事を考えるのではなく、男性、女性、さまざまな人々が共に参加・協力して、活動することが大切であると学んだ。

私が勤める病院は、女性看護師が多く務める職場である。男女共同参画の活動には、他の企業よりも積極的であるとは思う。しかし、本当に女性のことを考えた制度設計がなされているのだろうか、と考えるようになった。今一度、「男女共同参画」という意識を持って、さまざまな制度を見直し、取り組んでみようと思った。そして、その際、自分一人だけの考えではなく、女性職員や多くの職員が関わっていくことが大切である。男女が、共に同じ志をもって、参画していくことで、本当に、皆が笑顔になれる病院になっていけるのではないだろうか。そして、私はこれから、「男女共同参画地域リーダー県外研修」で学んだことを、私が勤める病院だけではなく、様々な人々に伝え、波及させ、男女共同参画社会への実現の一助となるよう努めていきたい。

一人がみんなのために、みんなが一人のために、の男女共同参画

出口　こずえ（大津町）

私は一社会人として、家庭では、妻として、親として、親の子として、そして女性として、生活を送っており、それぞれに色んな役割をもっている。

ここ数年で初めて知った“男女共同参画”の字。意味も分からず、知ろうともせず、私には関係のないものと、気にもとめていなかった。

これからの女性活躍推進・働き方改革の視点で、私は、女性が活躍するために、女性の社会進出のために、どうしても目の前にある高い壁、“女性の家事・育児労働”について考えていた。自分自身の経験上も、子供が急な発熱などでできる事もできなくなる現状があり、どうにか男性や会社や地域が、子育てしながら仕事を続ける女性の負担を考えてくれないものかとばかり思っていた。育児は楽しい事のはずなのに、一人で抱えていると、悩んだりして辛くなる事がある。仕事をしている人は、会社を休んで迷惑をかける事も考えたりしてしまい、だんだんどうしていいかわからなくなる事もしばしば。何かを犠牲にして仕事と家庭の両立をしていく人も多い。

私は、ここ最近まで家族の介護問題にも直面していた。家族や周りで働く環境の理解があり、みんなの協力や周りの支えがあって乗り越えることができた事を実感した。

それぞれに色んな事情を抱え、自分と周りで困っている女性が、これからキラキラ輝いて社会と無理せず、自然に関わっていくには手助けが必要なのである。

やりたいけど一歩踏み出せない、うまくいく方法が分からない、だから後ろ向きになる。でも、その気持ちがこの男女共同参画がある事で、少し光が見え目の前が明るくなり、ちょっと頑張ってみようかなと私も私の周りも考える人が多くなった。

そういう理由から、楽しく笑って人生を歩むには、もうちょっと深く知ってみたいと思い今回参加してみた。

参加して実感したのは、私は一方方向の視点からばかり今まで見ていた事に気づかされた。男性にもっと頑張って欲しい、協力して欲しいと思っていた事も、研修の中では子育てや家事とありましたが、男性も家事・育児をしたくても現実問題、そこまで男性のワーク・ライフ・バランスへの認知や理解も取れておらず、またそこには収入面での家計の負担も生じる男性女性格差問題など、課題が沢山あると思った。協力したくてもできない、参画したくでもできない男性の辛さを改めて知ることもできた。

今回の研修に参加し、施設・講師の方々のお

話を聞いたり、スタッフの方々との交流もでき、真っ新な気持ちで新たに枠からはみ出した視点で、物事を考える事ができそうな気がする。

男性も女性も無理ぜず、お互いに近づけるように、みんなで創る男女共同参画という事を、今回の研修での学び得る事ができた。

バランスを考えながら

西　卓也（荒尾市）

今回の研修を通じて、男女共同参画社会づくりの考え方、捉え方として、「男女共同参画はバランス」であると結論に至った。この視点をもつことにより、私なりに本研修を正しく理解できたと思っている。事前研修では、男女共同参画社会の基本を学ぶことができ、この学びにより、県外研修のそれぞれの内容をスムーズに理解することができた。具体的には、これまで、男女共同参画社会というと、女性が社会への参画を行い、それと同時に男性が家庭に参画する仕組みだと認識していたが、これからの時代は、「男性も女性も経済を支え、男性も女性も家庭を支えることが良い」というものであった。この解説により、男女共同参画を正しく理解することができたと感じている。

県外研修においては、「男女共同参画社会は、バランスである」ことを念頭に、様々な視点の取組みや活動内容を学ぶことができた。

男女共同参画センター横浜や大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」におけるそれぞれの事業は、事業の対象の方を明確にして取り組まれていることが印象的だった。

男性視点や地域づくり視点での男女共同参画の考え方の講演では、まさにバランス重視の取組みとして紹介され、理解を深めることができた。女性活躍の鍵は男性の意識改革が重要であり、柔軟な働き方への容認などの支援が必要なこと、また、地域づくりでは、事業本位で考えるのではなく、人材本位で捉えることが重要であり、男女や人材の経験を生かした地域活動を行うことで地域活性化に繋がることを教えていただいた。

そもそも、今回の男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業研修に参加したきっかけは、私が市役所の業務で防災業務を担当しているためだ。

今回の県外研修においては、市職員として業務を担当して内容に直結するものとして、減災と男女共同参画研究推進センター共同代表の浅野幸子氏の「女性の視点の防災と復興」と題した講話を受講することができた。

大規模災害におけるジェンダー・多様性の視点から見た被災者の困難・課題は、実際に、平成２８年熊本地震においても多くの課題となっていた。市の災害対策や避難所運営を行ううえで、この教訓をきちんと認識し、各種マニュアルづくりなどを行っていく必要があることから、今後の業務に取り入れていきたいと思う。

また、災害時における自治体が行う業務のうち、今回の研修により学んだことを踏まえ、市の災害対策業務の中における男女共同参画センターや男女共同参画担当部局の役割を明確にするとともに、防災部署との連携を平常時から行い、災害時における活動を整理しておくことが必要であると考えたため、さっそく取り組みをすすめていきたいと考えている。

今回の研修を通じて学んだことや知り合えた方々との繋がりを今後も大切にして、少しずつ「男女共同参画はバランス」について広めていきたいと思う。

研修に参加して

宮川　博貴（玉名市）

男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業県外研修において、貴重な経験を数多くさせていただいた。今回の参加は、４月の定期異動で、男女共同参画係に配属され、「勉強になるから」と参加を勧められたことがきっかけである。

まず、研修１日目は最初に、男女共同参画センター横浜（フォーラム）の施設見学と国立女性教育会館（ヌエック）の客員研究員の髙橋由紀氏の講話で、２日目は、東京都大田区にある大田区立男女平等推進センター（エセナおおた）で、ＮＰＯ法人男女共同参画おおた兼ＮＰＯ法人パシオン東京の理事長である坂田静香氏の講話「行列のできる講座とチラシの作り方」があった。講話の中でとても興味を持った話が、「人の集まらない講座の言い訳トップ３」①開き直り②市民の意識の低さ③天気のせいにする。自分でも言ったことがあると思ったし、聞いたこともあった。番外編で「地域性のせいにする」といったものが多く、主催者側（自分たち）を正当化する意見が多いとのことである。他にも、タイトルにふさわしい言葉や、避けたほうが好ましい言葉など、人を寄せ付けるためのスキルを学べたと思う。次に、エセナおおたのスタッフとパシオン東京のスタッフを交えての意見交換があり、ワーク・ライフ・バランスについて話したときは、自分の考えていたこと以外に沢山の意見が出てきたし、海外の話も出てきて、とても勉強になった。他の方の意見が聞けてとても視野が広がった。２日目の最後は、減災と男女共同参画研修推進センター共同代表の浅野幸子氏の講演で『女性の視点の防災と復興』のテーマで講演があり、今までの防災マニュアルには、男性目線でしか書いておらず、女性のための事はほぼ書いてなかったので、発災の時は女性が多く命を落としているという事実を初めて知ったし、災害の時は、女性の性被害が増えるということも分かって良かったと思う。

最後の日３日目はＮＰＯ法人ファザーリング・ジャパン理事の東浩司氏の講演で『イクメンとイクボスが社会を変える』という演題で講演していただいた。プラス思考になろうと考えるとかえってマイナス思考に陥りやすくなったりするので、考え方を変えるだけで気持ちが変わり、周りの人も気持ちよくなるということを教わった。この研修の最後には、市民社会パートナーズ代表の庄嶋孝広氏より『男女共同参画視点の地域づくり』という講話を聞き、民間と大田区の特別職員で培ったことを生かした地域活動の変化が求められる地域活動の話から、男性コミュニティづくりの話、男性が地域のために参加すると良いことなどを話された。

今回の県外研修に参加して、どの講話を聞いても、男女共同参画社会と言うのを改めて認識することが出来、とても良い経験が出来た。

地域リーダー研修に参加して学んだこと

氏家　良子（菊陽町）

私は、４月から総務課男女共同参画推進係に配属された。「男女共同参画」という言葉は、以前から聞く言葉ではあったが、どのように推進していくべきかは、見当がつかなかった。

そのような中、県より「地域リーダー研修」参加者募集のお知らせがあり、正直、どのような研修なのか、今後に生かせる研修になるのかという不安があったが、以前参加したことがある先輩方の話を聞くと、「絶対に得るものがある」との言葉をもらったので、「これはチャンス」だと思い応募した。

先進地研修は、私が勤務しているセンターと同じような形式で運営をしている施設が主であった。常日頃、センターの運営でいろいろと悩みがあったので、運営はこのように考えてもいいんだな。型にはめすぎてもいけないんだなといろいろな面で衝撃を受けた。

施設内に展示されている資料なども工夫してあり、ただ掲示するだけではなく、啓発したい内容が掲載されている新聞などの情報をまとめて掲示することで、掲示物を目にする人の興味を引き、より啓発を進めていくという方法を勉強することができた。また情報を収集し、それを検証することの大切さも学ぶことができた。

また、講義では、男女共同参画についての講義をはじめ、知らせるということを念頭に置きながら伝えたいことをチラシで表現する講義や、様々な活動から得た経験などの講話を聴くことができ、改めて男女共同参画を啓発してい

くことの難しさ、やりがい、方法などを確認することができた。
　また研修に参加することで、県内の地域で活動をしている方々、各事業所の方々、自治体職員の方々と出会うことができ、いろいろな意見を聞かせてもらうことで、自分のスキルアップ、今後の仕事への意欲にもつながった。
　男女共同参画の推進という決して簡単ではないが、重要な任務を引き受けている現在、少しずつでも確実に皆が幸せに暮らせる社会の実現を目指して、この研修で得たさまざまな知識、経験を活かして、今後の業務や担当している男女共同参画の推進に力を尽くしたいと思う。

３班

研修を終えて

上野　智美（菊池市）

　“男女共同参画”という言葉は、日常で時々聞いたことがあったが、直接関わったり考えたりする機会がなかったので、どんな意味なのか、どんな活動が行われているのか知らなかった。今回研修に参加させていただいたことで、多くのことを学ばせていただき、考える視点や視野が広がった。貴重な機会をありがとうございました。
≪研修内容、感想≫
～１日目　男女共同参画センター横浜（フォーラム）～
施設見学：施設の充実や工夫を感じた。図書館では、わかりやすい本の案内や紹介。各教室では、さまざまな講座の掲示の見やすさの工夫を感じた。
講座やイベント開催の充実：講座の対象者が明確、興味を持つ内容だった。例…“ガン患者の”“退職後の男性”“５０代の女性”等。
統計から考える日本の男女共同参画：数字で見ることで、時代の流れや男女の比較、状況整理がしやすく、わかりやすかった。
～２日目　大田区立男女平等推進センター（エセナおおた）～
講話：“講座の企画、チラシの作り方”が、特に楽しかったし、勉強になった。参加したいと思われるイベント企画やイベントの内容をいかにわかりやすく伝えるかの工夫、大事なことだと思った。
昼食：エセナおおたの方達を交えた席での昼食だったので、食事をしながら、気軽に、質問や会話ができ良かったと思う。
意見交換会：立場の違う方達の、思いや考えをそれぞれ聞くことができ、改めて、考え方や見る視点、優先順位や悩みの違いはさまざまで、そのうえで、生活しやすい環境をつくっていく必要性を感じた。
～３日目～
　イクメンとイクボスが社会を変える：イクメンは聞いたことがあったが、イクボスという言葉は初めて聞き、菊池市でも取り組んでいると知り、面白い取り組みで良いと思った。子育てがしやすい社会づくり、共に支え合える社会づくり、みんなが幸せだと思える社会づくりを目指していきたい。
　最後に、熊本県内の素敵な方達とご縁をいただき、交流をもてたことも、とても大きな財産になった。一人で行動することも大事だが、やはり同じ志を持っている方達と繋がり、共に活動していくことは、気持ち的にも、活動の内容的にも、とてもプラスになるし、可能性が広がる。今後の活動に、今回のご縁も大事にし、繋がって活動していきたいと思う。本当にありがとうございました。

研修に参加して

株元　知子（合志市）

研修が始まってすぐ、フォーラムにて「男女共同参画とは」という基本的な言葉の意味を教えて

いただいた。何となく意味は分かっていたつもりだったが、「男性と女性が、互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、性別にとらわれることなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会であり、『参画』とは単なる参加でなく「主体的に意思決定の過程から参加する」ことを意味している」と、実はパレアのホームページから抜粋したという分かりやすい説明文を聞き、なんだか急にわくわくしたことを覚えている。「男女共同参画についての研修があるけど、行ってみませんか?」とお誘いを受け参加してみたものの、「私に何ができるのか？」「研修後にどうやって活かしていくのか？」と多少不安も感じていた。しかし、上の説明を聞き「そうか！この研修自体、ただ参加するのではなく、何を学び、何を吸収するのか、そして今後にどう繋げていくのかを、主体的に考えながら参加していけばいいのか」と、これから始まる研修に期待が膨らんだからである。

私は４歳の娘を持つママである。どうしても子育てや子どものことについて興味が向いてしまうのだが、今回の研修でも、「子育てと男女参画」「ワーク・ライフ・バランスについて」「父親の育児参加について」など、とても興味深い講話を聴くことができ、意見交換をすることができた。都会でも熊本でも抱えている問題はあまり変わらず、日本全体でまだまだ考えていかなければならない問題が多くあることを知ることができた。我が家は私が家事全般を担っている。夫も子どもの遊び相手はしてくれるし、頼めばお風呂など世話もしてくれてはいるが、「手伝っている感」が拭いきれない。もう少し自主的（主体的）に協力してもらいたいと常々思っていたが、フルタイムで仕事をしているわけでもないため、ただ単に私のわがままなのか、自分がもう少しちゃんとやれればいいだけなのでは？とちゃんと頼むことや、話し合うことをしてこなかった。

しかし、今回２泊３日の研修が決まり、夫には期せずして「娘の世話を全て一人でやらなければいけない」というミッションが与えられることとなった。幼稚園のお迎え・ごはん・お風呂・着替え・歯磨き・寝かしつけ・・・それぞれ単発ではやっているが、全てを一人っきりでやるのは初めての経験。不安もあったが、ある程度準備しておき、あとはお任せすることにして家を出た。

結果は、特に問題なく、ふたりで楽しい時間を過ごせたようだ。

私も、ファザーリング・ジャパンの東先生の講義で、父親が子育てに参加することは、子どもにとっても、妻にとっても、父親本人にとってもメリットがあり、みんなが幸せになることができるんだという話を聞き「私の手伝いをしてもらうのではなく、自分のため、娘のためにもっと関わってもらっていいんだ。」と思えた。

しかし、普段は帰りも遅くなかなか育児参加ができないのが現状である。子育てに参加したいと思っている男性も増えてきているはずだが、仕事場や社会がそれを阻んでいるのも事実。

私自身「イクボス」という言葉にあまり馴染みがなかったが、夫のためにも子どものためにも、もっともっと男性の育児参加について会社や社会が理解を深め「イクボス」が増えていくことを願っている。私が行なっている活動にも、ママだけでなくパパの参加を促すことや「イクボス」の普及に努めていきたいと思った。東先生がおっしゃった「父親が変われば、家庭が変わる、地域が変わる、企業が変わる、そして社会が変わる」という言葉を聞き、子どもの未来を作るのは母親と父親だけではできない。社会が変わり、子どものためにすばらしい未来が拓けるならば、それは誰にとってもすばらしい未来になるはずだと思った。

また、今回の研修に参加して「男女共同参画」には色んな問題、テーマが含まれていることを知ることができたのも大きな収穫であった。２１世紀になってもうすぐ２０年。平成も終わろうとしている今、これからますます多様化していくであろう世の中で一番大切にしないといけない「男女共同参画」について学ぶ機会を得られたことは私にとっても大きな意味を持ったと思う。

参加する前は、私が行っている活動に「男女共同参画」はどう関わってくるのか？と思っていたが、研修を受けてみると、とても密接している内容のものばかりであった。

まずは「男女共同参画」の意味を知らない人に、その本当の意味を知ってもらうこと、そして自分たちにとても身近な問題であることを伝える活動ができればと思っている。
今回の研修で出会った、年齢・性別・仕事・住む地域が全く違うけれど研修や夜の自主活動で楽しい時間を過ごすことができた班の皆さんとは、これからも長くお付き合いしていけたらと思っている。ネットワークを広げ、情報交換を行うことで「男女共同参画社会」の実現に向け協力していけたらと思う。ありがとうございました。

意識改革ができた！

永田　尚稔（和水町）

　男女共同参画社会づくりの研修を終了し、今までの人生、そしてこれからの生き方・考え方について大きな意識改革が図れたと思う。私はロンドンビジネススクール教授でリンダ・グラットン氏／アンドリュー・スコット氏著書の「１００年時代の人生戦略」に書かれているとおり１００歳迄、特に大きな病気さえしなければ、「人生１００年」と単純に思い込み、現在６６歳であるので、あと４０年、生きられると単純に思っていた。
　かつて日本は江戸時代までは士農工商という身分制度が敷かれ、その後昭和２１年に日本国憲法が公布された。憲法第１４条においてすべての国民は、法の下において平等であって人種、信条、性別によって差別されない。と憲法改正があった。性別については、男性は外で働き、女性は家庭内で家事・育児と世間から決めつけられて永い年月がすぎた。熊本県においても、この古い風習が残り、男女共同参画のあり方を真剣に理解し実践すべき時期にきている。
　男女共同参画の「参画」とは、単なる参加でなく「主体的に意志決定の過程から参加する」と、この研修で説明を受け、理解できた。横浜市では３０年前から男女共同参画センターを開設し既に実働している。
　視察１　フォーラム施設見学において、非正規雇用の女性が増加し、働く女性のうち半数以上が非正規労働者であるということであった。
　講話１　「統計から考える日本の男女共同参画」において、「ジェンダー」とは、歴史的・文化的・社会的に形成される男女の差異をいう。また、我々男性にとっての課題は、中高年の自殺率の上昇である。特に１００歳以上の高齢者の自殺率が目立つ統計である。
　講話２　「行列のできる講座とチラシの作り方」において、一般向けチラシの作成によって多くの住民の参加が期待でき、特に担当者の熱意と努力により参加意欲を掻き立てる。
　視察２　エセナおおた視察見学
この館内で作業をされていたある女性は「スゲ（植物）」を結って２年計画でバッグを作成中と言われた。本職の腕前であり、また芸術家でもあり、一生涯のやりがいのある仕事を持ち、すばらしいなと印象に残った。
　講話４　「イクメンとイクボスが社会を変える」かつては「頑固カミナリ親父時代」（家夫長時代）→モーレツ・サラリーマン時代（高度成長期）→イクメン・イクボス時代（仕事と子育てとの両立、男性社員の育休、介護取得に理解ある上司）このように時代が変遷している。
　講話５　男女共同参画視点の地域づくり
地域における男女共同参画の現状として、熊本県の女性の平成２８年３月自治会長は２、６％であり、ＰＴＡ会長は平成２８年３月現在７、５％である。あまりにも女性会長（リーダー）の比率が低すぎる。
　男女共同参画社会づくりにおいてジェンダーという差異をなくし、性別に関係なく安心して夫婦協力し、家庭内では子育て及び仕事に従事すると共に、職場にあっては育児に理解あるイクボス社会つくりを目指したい。もし高齢者（６５歳以上）になって、男性は子ども・孫の育児に非協力で、家事もやらなかったなら、その長年の怨念がつもり、６５歳定年を迎えると同時に卒婚となり、高齢者の自殺が待っており、妻に逃げられ、悲惨な最後の人生にはなりたくないものである。今からでもジェンダーを理解・克服し、安心して人生１００年生きられる

社会にしたいし、この人生を謳歌したい。

研修を終えて

東　洋子（長洲町）

初めに。

町の職員の方から「男女共同参画地域リーダー育成研修」に参加しませんか？というお話を頂いたとき私は躊躇した。男女共同参画についての知識もなく、私よりもっと若い世代の方が参加するべきではと思ったからだ。でも周りの方々の「年齢とか関係ないよ。勉強になるけん、行っておいで。」という声に後押しされて参加することを決めた。先ずは予習のつもりで、町の図書館から男女共同参画に関する本を借りて読んでみて、自分の中では多少は理解できたかなと思い込んでいた。しかし今回の研修に参加してみて、「理解できたこと」、まさに「目からウロコが落ちたこと」がたくさんあり、本当に研修に参加させてもらってよかったと感謝している。

まず、８月に行われた事前研修での熊本大学鈴木教授の講義で、男も女もなく皆が一人一人違うという見定める視点が必要ということ。男女共同参画社会の基礎といえる部分を学ばせていただき、私の男女共同参画社会の研修はスタートした。

県外研修ではまず「フォーラム」での高橋由紀先生の講話で「統計を読む力を身につける」ということを学んだ。統計を読むことで見えてくるものと見えないものがあるということを知る。資料の中にあった「ジェンダーギャップ指数からみる日本の順位」の説明で２０１６年に日本は１１４位。特に政治の順位の低さには驚いた。日本は先進国だという思い込みがあり、まさかこんなに低い順位とは思わなかった。まさに数字で示すと正しい知識として捉えられ、男女間の格差を知ることができることを学んだ。

「エセナおおた」では「行列のできる講座とチラシづくり」の講話。人を集めるためには熱意と努力が必要、そして企画力と広報の向上が不可欠と話され、事例により納得できた。先生のパワフルな講話に圧倒されながらも、男女共同参画を推進する人を増やすためのポイントとなるテーマを学んだ。また、浅野先生による「女性の視点の防災と復興」の講話で熊本地震での避難所での事例を掲げて話をされた。また、避難所では女性の力が大事で、女性の立場に立った気配りや目配りが必要だと力説された。機会があればもう一度先生の話をお聞きしたい。

最後に。１９９５年９月北京世界女性会議が開催され、女性の性の権利（セクシャル・ライツ）の問題が重要な論点となり、保守的な価値観を主張するイスラム諸国と先進国の間で意見が対立し多ことを思い出した。またジェンダーという言葉が初めて公式に使われるようになったのもこの時からだという。あらゆる政策に、ジェンダーの視点を取り入れることが提唱された。今回の研修に参加して、改めて男女共同参画社会の中での女性の人権とは？自分にできることは何か？考えていきたいと思う。

研修に参加して

宮本　京子（菊池市）

今回の研修参加は、男女共同参画推進課の方からお話をいただいたことがきっかけとなり、男女共同参画社会とはどのように社会に関わりがあるのか学び、そして県内それぞれ地域で活躍されている研修生の方々と仲間になることができた。

男女共同参画センター横浜フォーラム視察及び講話。横浜市の男女共同参画センター３館を拠点として、情報の収集・提供・調査研究・広報・学習研修・相談等の事業が展開されており、横浜市住民の主体的な活動を支援されていた。「統計から考える日本の熊本の男女共同参画」高橋由紀先生の講話は、とても興味深かった。なぜなら、統計データを比較することで、意識にのぼりにくい性別の格差を明らかにし、見え

る化すること。そうすることで、男女共同参画って自分たちの生活に役立つこと、そして身近にある課題について気づくことができる。その際、利用する統計データは、新聞やテレビ、インターネットの統計調査が誘導的になることがあり、いくらでも本質は捻じ曲げられるので、質の良いデータを利用することは重要だと述べられた。

大田区立男女平等推進センターエセナおおた視察および講話。施設見学と概要説明を受け「行列のできる講座とチラシの作り方」坂田静香先生による講話は、まるで目からウロコの企画力と広報の威力について話された。人が集まらない原因は、自治体側にあって住民の参加意欲が低いせいでなく、企画は参加者を絞り分析しなければ失敗は繰り返される。その企画の良さを、どのようにチラシで伝えるか、エセナおおたで開催される講座は時間をかけ深く分析されていた。講話「女性の視点の防災と復興」は、浅野幸子先生から、平常時から男女共同参画の推進が防災・復興の基盤となること。特に自治体の職員は、被災自治体となってしまった場合に家庭責任があっても（子育て・介護等）仕事を優先せざるを得ないため、子どもや要介護者の預かり支援体制を日頃から考えておくべきだと感じた。災害対応状況をジェンダー視点から分析すると、被災者の性別や年齢等の個別性を配慮する必要があることや、今後は応援自治体も被災地の状況に応じて女性職員を派遣する必要性があることを知った。

講話「イクメンとイクボスが社会を変える」ファザーリング・ジャパンの東浩司先生の講話では、自分らしくいきいきと働くをテーマに、ワーク・ライフ・バランスや働き方改革について分かりやすく笑いをまじえた男性視点から捉えた男女共同参画であった。男性、父親の生き方と働き方が少しづつ変りつつある中で、まだまだ性的役割分業意識とか男性は稼ぎ主であるといった、人はこれまで経験してきた習慣や常識、考え方はなかなか意識して変われないので、良いな！と気づいたら行動してみる。習慣化するまで続けてみる。自分も、自然に習慣化できる行動を考えてみることにした。

今回の県外研修を通して、さまざまな視点から男女共同参画社会づくりの重要性を再認識した。時代とともに少しずつ変化しているジェンダーは、社会や文化に影響されていると学習した。今後も変化していくのだろう。男女共同参画社会は女性政策の延長ではないか？そう捉えられがちであったので、なかなか男性の生き方が変らなかった。しかし私たちが求めている社会は、仕事と生活の調和がとれた、あらゆる人のためのものである。ワーク・ライフ・バランスは、性別に関わりなく、あらゆる分野で、皆の個性がピカリと輝き、能力が発揮できる社会の実現につながっている。お互いを思いやる気持ちと感謝の気持ちを大切に。

県外研修を終えて

髙木　慎一郎（和水町）

今回の研修を受けて、男女共同参画の「参画」という意味を学ぶことができたと思う。というのも、「男女共同参画」という言葉は知っていたものの、中身については、まったくといっていいほど無知であったからだ。

だから、今回の研修は、どの講話も自分にとって刺激があり、大変有意義なものとなった。

特に今回の研修で心に残っている講話が２つある。ひとつは、エセナおおたでの講話で「行列のできる講座とチラシの作り方」である。

人が集まらない原因は、環境や住民のせいではなく、「企画力」と「広報・ＰＲ力」が不足しているだけというフレーズがとても心に響いた。というのも講座だけに限ったことでなく、祭りや行事などで人が集まらない言い訳として、環境や住民などのせいにしているのを実際に聞いたことがあったからだ。

企画力がなければ、人は集まらず、人が集まらなければ対象者の支援はできない。

企画の段階で内容をしっかり練る大切さをこの講話で学ぶことができた。また、講師から企画力を向上させるのも、対象者の心に響かせる

のも最後は担当者の熱意と努力だという話を聞き、仕事に対する姿勢をあらためて考えされられた。

もうひとつは、最終日での講話、「イクメンとイクボスが社会を変える！」である。

前日のエセナおおたでの意見交換会の中で、３班はワーク・ライフ・バランスについて討論を行っていた。男性が育児休業を取得しづらいことや休みがとりづらい環境にあることがわかり、それは同時に、育児等が女性任せになっていることを示していた。実際に育児休業取得率の数値を見ても、男性の育児休業取得率は女性よりも遥かに低い値である。

現代社会は、育児休業や休みがまだまだ取りづらい環境であると思う。それは父親が子育てをすることが、子どもや妻、自分自身にとっても大きなメリットがあることが社会に浸透していないからだ。自分もワーク・ライフ・バランスが崩れた時期があり、育児や家事などをパートナーにまかせっきりになってしまったことがあった。

このような現代の社会背景に登場したのが、部下やスタッフのワーク・ライフ・バランスを考え組織の業績も結果を出す、通称イクボスである。

意識改革が進まなければ、本当の意味では、女性が活躍できる社会や働き方改革には繋がらない。しかし、このイクボスが増えることで、職場や社会全体においてワーク・ライフ・バランスが取れやすくなり、家事や子育てをする余裕が出る人が増えると思われる。このような取組みや思いやりを、一人一人が普段から意識することが男女共同参画社会づくりに繋がっていくのだと講話を聴いて特に感じた。

女性と男性がお互いに尊重しあい、性別等にこだわらず、個々人の個性や能力を十分に発揮できるような男女共同参画社会になれるよう、自分ができることから少しずつ始めてみようと思う。

だれもが自分らしく笑顔で生きる社会へ

浜田　美由紀（長洲町）

縁あって「男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業」にお声かけいただき、県外研修に参加することができた。男女雇用均等法や女性管理職の登用、ワーク・ライフ・バランスについての関心が高まっている昨今、私はこれまで人権教育を担当してきて「男女共同参画社会」という言葉は自分なりに理解していたつもりだった。しかし、いざ尋ねられると漠然とした答えしか返せない自分がいて、今回の研修を通して「男女共同参画社会」とは？と尋ねられた時、明確に答えられる自分になりたいという目標を立てて参加した。

〇男女共同参画センター横浜、エセナおおたの施設見学

フォーラムでは、数々のセミナーなどのチラシや掲示物、専門性の高い情報ライブラリやホール、生活工房では性別・年齢を問わず手仕事を通しての交流がなされていた。ここから地域のネットワークを広げる人もいれば、自己啓発のために学びを深める人、起業にステップアップする人もいるであろうと考えるとこのような空間がとても羨ましく思えた。「キッズな大森（大田区の児童館、学童保育所）」に隣接するエセナおおたは前日に見学したフォーラムと比較するとやや古い建物だったが、建物のいたる所に細やかな配慮がなされていて、防災意識の高さも防災時のトイレ使用の掲示やヘルメットや懐中電灯の設置等で伺い知ることができた。

〇さまざまな講話について

高橋由紀先生の講話では、統計資料を読み解くことによってわかる資料の背景を認識し、何が必要であるかを理解することができるという事を学び、日頃何気なく見ていた統計資料を改めて見直すよい機会になった。坂田静香先生の講話では、チラシ作りを通して幾つも配慮すべきことがあり、受け手側に立った内容や言葉を選んで計画することの必要性を学んだ。浅野

幸子先生の講話は、私自身、熊本地震等の避難所勤務の経験もあり、本当に勉強になった。できればもう一度聞きたいと思った。災害時にこそ男女共同参画の視点で運営を行っていくことが命を守るために重要であると改めて考えさせられた。東先生と庄嶋先生の講話は、これまで女性側の視点からの講話だったが、男性側の視点からも男女共同参画を考えることの大切さを実感することができた。東先生の「イクメンという言葉をなくす社会を目指す」と、庄嶋先生の「地域を好きな人、地域に関わる人を増やす」の言葉がとても印象に残った。時代と共に父親像もボス像も変化していく。これからの男女共同参画の方向性とは、女性の参画の質的向上＋男性の参画の量的向上＝つまり仕事での女性の活躍の場が増えることと地域での男性の活躍の場が増えることこそ「だれもが自分らしく笑顔で生きる社会」を創っていくのではないかと思った。結びに、今回の研修を通し参加者の皆さんとの出会いと繋がりを持つことができたこと、多くの気づきや学びを深めることができたことすべてに心から感謝をしつつ報告を閉じたいと思う。

日日是好日…全ての出会いに感謝。

4班

目からうろこの研修

松本　由香里（天草市）

男女共同参画社会、ワーク・ライフ・バランス…言葉だけは知っていても改めて自分のこととして考えたことがなかった。

私は５５年間、夫は仕事、妻は仕事をしていても家を守るという役割分担の中で何の疑問も持たずに生きてきたからだ。

だから、この研修に参加しなければこの先ずっと娘や息子、将来きてくれるかもしれないお嫁さん、若い方々の生活スタイルに対して私が求める人生の役割分担のイメージでの考え方を押し付けていただろう。（ああ怖い）

私は研修当初から、自分が男女の役割に対して古い型のままの固定観念を持っていることを知ることとなった。

先に書いた男女の役割分担で何の支障もなかったのは、たまたま私の過ごしてきた環境や人間関係が自分に合っていたからだけであり、正解や正論ではなかったことに気付いていなかった。

人それぞれ、様々なタイプの生き方があり、置かれている環境や状況によって事情が違うのだということをしっかりと認識しておくべきだった。

そして、社会全体が他者の事情に寛容で柔らかい心を持っていかなければ、人口減少の進む日本社会は成り立たなくなることを改めて意識することができた。

研修後、いろんな場所で多くの方々と男女共同参画についてディスカッションをすることができた。それにより、本当に様々な生活パターンがあることを再認識できた。これは、研修に参加できたお陰だ。

男女共同参画は、男女の平等を前提にしているのではなかった。男女で一緒になり作り上げていこうということだった。誰でも社会の中ではそれぞれの事情と格闘している。

だから、仕事場でも、家庭でもお互いに思いやりを持って理解し合わないといけないのだということを再認識できたので、今後は周りの人に男女共同参画について問題提起していける存在になりたいと思っている。

研修に参加して

東　喜美子（宇土市）

私の研修は、飛行機のチケットを取るところから始まった。今までは人に頼ってばかりだった。今回は自分ひとりでチケットを取ることが

できたのでちょっと成長した気分である。

横浜フォーラムは女性のための蔵書が沢山あり、生活工房では沢山の方々が趣味のすげのバック作りを楽しんでおられた。こんな施設が身近にあったらどんなに良いだろうと思わせる場所だった。高橋先生は、男女参画統計から男女格差の見えないものが見えてくるという講話だった。エセナおおたのスタッフも熊本地震の被害状況の発表のとき、データの男女比は？と尋ねられ、統計からいろいろなことが読み取れることに気づかされた。

エセナおおたでは玄関先で折紙のくまモンが出迎えてくれ、スタッフの気配りが感じられた。この施設の休館日は年末年始のみということで、しかも、夜１０時まで開けているとのことで、いかにスタッフの方々が男女参画に力を注がれているかが伺われた。坂田先生はとてもパワフルな方で、チラシ作りについてわかりやすく話され、チラシ作りは奥が深いと思った。ここでの分科会はとても有意義だった。災害時は女性にとってトイレに問題が多いという話しを聞くことができた。この意見交換があるまで私はトイレについてはそこまで重要だとは気付かなかった。帰ってから、さっそく簡易トイレと携帯トイレを買いに行き、避難物品に加えることにした。浅野先生はリュックサックを背負っている姿が印象的な気さくな方だった。地域で女性の防災リーダーがいたら関連死は減ったかもしれないという話は衝撃的だった。災害対策会議に女性が参加出来るよう、機会あるごとに声をあげていかなければならないと思った。国が避難所運営の自治体向け指針を作成したとの新聞記事を見たので、宇土市でも女性目線で避難所運営の手引き書が出来ているのか確かめたい。

東先生のイクメンの話はユーモアたっぷりで、一番共感したところは女性の愛情曲線のところ。父親の育児は２０年後の離婚防止策というところは正にその通りだと思った。

庄嶋先生の話は地域のつながりの大切さを改めて意識できた講話であった。私の住んでいる地域でも高齢化が進み、地域のイベントに参加する人も限られてきている。こんな現状だからこそ男女の区別なく、少しでも多くの人と繋がりたいと思う。

研修はどの先生の講話も期待以上であった。ただ、最後の日に自分の不注意で携帯電話をなくしてしまった。携帯電話に頼りすぎていた自分に気づかされ、うろ覚えの夫の携帯番号に電話しようと帰路の途中に公衆電話を探したがどこにも見つけることができず、不安になってしまった。もし、災害が起こり、携帯電話が通じなかったらどうしたらよいだろうと考えさせられた紛失事件だった。日頃から家族間で話し合い、決めごとをしておくことと紙面で電話番号を記録しておくことの大切さを実感した。失敗もあったが実り多い研修であった。

研修で感じたこと

入江　孝美（宇城市）

現在、私は宇城市消費生活センターで消費生活専門相談員として仕事をしている。

「男女共同参画社会」、「ジェンダー」、「女性の社会参加」、「男女平等」、「非正規雇用」、「イクメン」、「イクボス」、「イクジイ」など、これらの言葉を聞いて、時々耳にはしていたけれど、これは、遠い縁の無い言葉としか感じていなかったのが、今まで生きてきた中で、私にも必要な事柄、真剣に取り組むべき事柄だったのだとこの研修に参加して思い知らされた。

地域の女性たちのために、この研修で得たものを伝え広げて、これからの女性、男性の意義ある生き方をしてほしいと思った。

研修の１日目、２日目は施設訪問と、そこでの取り組みや、方針等。男女共同参画の理解や浸透を深めるための活動においては、有効なチラシの作り方、チラシの工夫で、全く違う結果が出るとのことで、実践結果を交えての講義はなるほどと気付かされた。

また、「女性の視点から自然災害における対策」はという講義では、特に私たちは地震災害を受けており、あの時、どうすべきだったか、女性の救済活動の参加で、防げた被害、救済できた

被害があったのではと熱い意見交換もできた。

次に、目線を換えて、いろいろな「統計から考える日本の男女共同参画」という講義は、仕事における都道府県の男女共同参画比率を統計の数字で目に訴えて、男女共同参画社会の推進を充実させるお話だった。

因みに半世紀に見た女性の就業状況は、「熊本の女性が一番働き者」ということがわかり、やはり男尊女卑、熊本の女性は仕事も、家事もこなして、強いと思った。右肩上がりの統計のグラフをみてどうすれば男女共同参画やワーク・ライフ・バランスへの理解を広めることができるか悩んだ。

しかし、 対策は最終日の講義にあり、それが「イクメン、イクボスが社会を変える」と「男女共同参画視点の地域づくり」の講義だった。「現役パパ」や「育児なしのパパ」も地域活動に参加することで、おのずと男女共同参画社会の推進の充実につながるということで、男性は地域に眠る人材で、その人材の活躍の場所を提供する場所を地域活動の勧誘のチラシで提供するということだが、そのチラシは、先般、受講した「行列のできるチラシの作り方」で、側面打ち出しの作成で募集すればいいと感じた。

この研修を大きく分けると、男女共同参画社会の構築にあたって、前半は今までの経過・結果をデータで示した説明、後半はこれからどうすればもっと効果的な構築ができるかだったと思った。

今後、この研修を活かして地域の男女共同参画社会の構築に貢献したい。

私にできること

岡田　恵（天草市）

男女共同参画課の業務に携わり２年、リーダー研修に参加する機会をいただいた。すべての講話を聞いて、私の中にあった固定観念を払しょくすることができた。

１日目の男女共同参画センター横浜では、お互いが主体的に意識を変え参画するという理念のもと取り組まれ、中でも前年度の女性就業支援事業に約８千人が参加されていることなど、魅力ある事業を展開されていると感じた。

次に男女共同参画統計では、これまでの経緯などを科学的な手続きで調査された質の良いデータを使うことで経年変化を見ることができることは、非常に興味深く情報発信のデータとして活用していきたいと思った。

２日目の大田区立男女平等推進センター（エセナおおた）では、行列のできる講座とチラシの作り方の坂田さんの講話を聞いた。班での気づきや感じるところは皆同じで、ターゲット層が読む雑誌のリサーチや、年齢・価値観等が近い者の意見を尊重したチーム企画で行い、これからの企画は、意識啓発型から課題解決型に変えることだと、『広報力✖企画力』のノウハウを学んだ。相手の目線に立った気づきや発見があり、とても勉強になった。

また、同センターで取り組まれている事業は様々な講座に参加された多くの受講者をボランティア登録につなげ、現在１２０人ほどが事業運営のボランティアスタッフとして活動の場につながっていることもすばらしいと思った。

次に意見交換会「男女共同参画の視点での地域防災」(４分科会) では、被害が大きかった宇城市、宇土市の方が体験された想定外の問題や課題解決への対策・対応などを聞き、災害発生時の男女共同参画の視点に立った地域防災に求められるものを再認識した。また、浅野さんの「女性の視点の防災と復興」の話では、阪神大震災・東日本大震災・熊本地震の災害支援での避難所等で、平等や公平性が足かせとなる場合があると聞き、予測できない緊急事態が発生した場合の臨機応変の柔軟な考え方も必要だと感じ、防災会議等での役割について考えさせられた。

最終日の「イクメンとイクボスが社会を変える」は一番心に響いた。父親の育児に対する意識の変化や、子育てためのライフスタイルの見直し。それには職場や家庭・地域社会におけるイクボスの存在が重要であること。イクメン中の東さんにとても共感した。関連して最後の庄嶋さんの「～地域での男性活躍のススメ～」の

話は、地域で男性活躍の場を増やすことが、まさに男女共同参画であり男性が地域や家庭、学校等で活躍することで女性が職場等で活躍しやすくなることにつながると聞き、「私にできることは何があるか？」まず自主研修と思った。

この研修に参加し気づくことができたことも多くあり、業務においても職場や家族との関わりの中でも男女共同参画の視点で、役割を果たし男性活躍が女性の活躍推進につながるよう私なりに伝えていきたい。

研修後のこれから！

中村　健一（天草市）

今年の４月に男女共同参画課へ異動となったが、当初は言葉の意味もはっきり解らず、モヤモヤした日々を過ごしていた。こんな私がリーダー研修？大丈夫なのかと考えていたが、研修に参加し学習していくうちに、これまでのモヤモヤがすっきりした学びの時間となった。

今回の研修では、「男女共同参画センター横浜」、「大田区立男女平等推進センター エセナおおた」２つの施設見学があり、独自の事業が展開されており、地域に溶け込んだ施設だと感じた。また、スタッフの活気もあり様々な話も聞けたので有意義な時間でもあり、学習の時間でもあった。

講話１　「 統計から考える日本の・熊本の男女共同参画 」だった。この講話では言葉の意味や統計データーの紹介、分析について丁寧な説明がなされた。具体的な数で示されると理解しやすく自分の中にスーッと入ってきた。

講話２　「 行列のできる講座とチラシの作り方 」この講話が一番興味があり、コツなど持ち帰り、即実践できないかと思っていたので時間も短く感じた。講話の中で「人が来ない原因は企画力と広報・ＰＲの不足」と聞いたときは、確かにどちらが欠けても成功はないと納得だった。チラシ作成についてのグループワークもあったが、男女で考えや気づきなど違った面もあり、やはり多くの意見を聞く必要もあると考えさせられた講話でもあった。

講話３　「 女性の視点の防災と復興 」身近な問題でもあり、今後の在り方を考えるためにも重要な講話だと考える。講話で女性視点が重要なことを考えさせる内容だった。計画の段階で幅広い年代や男女からニーズを把握しないと、長期間の支援では間違った支援につながる、さらには関連死が増えると話され、危機感を持って対応しなければいけないと考えさせられた。

講話４　「 イクメンとイクボスが社会を変える 」、講話５　「 男女共同参画視点の地域づくり 」では、男性が家庭や地域に進出することによって「家庭が変わり・地域が変わり・社会が変わる」と話された。良い言葉だと思ったが、実践するのは誰かが一歩踏み出さなくてはならない。その誰かが私たちでなければいけないような気がする。

また「自分が太陽になろう」とも話された。自分が輝くだけでなく、周りを照らし仲間を作る、素晴らしい言葉、考えだと思った。

今回の研修で様々なことを学び、これからは幅広いニーズや男女問わず、みんなで知恵を出し合い、社会を支えていかなくてはいけないと思った。しかし、今の社会ではまだまだ難しい状況であることも理解できた。

私たちだけが学ぶだけではいけない。アウトプット（社会還元）することによって再確認し仲間も増やし、明るい社会を築いていかなくてはいけないと考えさせられた研修だった。

２つの決意

河野　史治（宇土市）

私は、平成３０年４月から男女共同参画の担当となり、この研修に参加することになった。

正直なところ、積極的な参加ではなかった。というのも、地域リーダーという言葉が私には似合わない言葉であり、少し躊躇していた。

しかし、いざ研修に参加すると、充実した視

察や講話ばかりであっという間に時間が過ぎた。

今まで、いろんな研修を受講してきたが、ここまで充実したものは、初めてだと感じている。

なので、全ての視察や講話について、感想を書きたいくらいだが、その中でも、私の人生に大きな影響を与えることになるであろう「イクメンとイクボスが社会を変える！」について書きたいと思う。

私事ではあるが、平成３０年１月に第１子が誕生し、とても嬉しい反面、生活が一変した。とにかく、今までみたいな自由がないのだ。 当然のことなのだろうが。それでも、受け入れがたい私がいて、常に葛藤していた。

そんな中、ファザーリング・ジャパンの東氏が私の考え方を変えてくれた。講話の内容はもちろん、私の考え方を変える要因になったのだが、最も私に影響を与えてくれたのは東氏のお人柄だった。おそらく、講話の内容が一緒でも、講師が違えば、私はそこまで影響を受けなかったと思う。

それほど、私にとって、東氏は理想的な存在になった。育児のために自分の仕事のやり方を見直し、それに否定的な考え方を示す人たちがいる中、それを自分の力だけで打開し、今では、周りを笑顔にする力をもっておられる。

本当にかっこいいパパだと思った。

東氏の考え方を信じ、まずは、育児に積極的に取り組むことを決意した。

また、講話の中で、男性の育児休業取得率について話があり、男性が取りにくい理由の第１位から第３位までに書かれていることは、女性が育児休業を取得しても同じことが言える。育児休業は女性が取るものという固定観念が日本中にあり、男性の育児休業取得を阻害している。だったら、その固定観念を壊すしかない。

私は、第二子が誕生したら、育児休業を取得することを決意した。私が育児休業を取得することが世の中に与える影響なんて、ごくごく小さなものかもしれないが、男女共同参画を推進するためには、その小さな一歩を踏み出すことが大切だと思う。

まずは、私がイクメンとなり、将来、イクメンを支援するイクボスになることをここに誓う。

研修に参加して

田嶋　智子（宇城市）

今年の４月に男女共同参画の推進担当となり、これまで深く考えてこなかった「男女共同参画」について学ぶうちに、様々な社会問題の背景に男女共同参画が十分に促進されていないことが要因の一つであるとされることが多いことに気が付いてきた。

しかしながら、男女共同参画社会の推進は、取り組んだ結果が見えづらく、すぐに効果として出るものではないため「砂漠に水をかける」作業に似ているらしい。自分に何ができるのか、もどかしい思いを抱えながら、その手がかりを探して研修に参加した。

１日目に訪れた男女共同参画センター横浜では、「非正規職シングル女性」へ向けた支援を実施している。これまで、ひとり親、ＤＶ・性暴力被害者、無業者、シングルマザーへの支援はされていたそうだが、「非正規職の独身女性」への支援が何もないことに気が付いたことからここ数年取り組みを始められたそうだ。

非正規職の独身女性の貧困率は高く、年代が上がるほど年収が下がることなどから、女性が働いても自立できないことは、社会の問題であり、行政の課題であることに気づかされた。

２日目の男女共同参画おおたの坂田講師からは、企画の作り方について「対象者を徹底的に絞ること」、「担当者が熱意をもって努力すること」の大切さを学び、減災と男女共同参画研修推進センターの浅野講師からは、「男女共同参画の担当者である私達が避難所運営に積極的に関わっていくこと」の必要性を学んだ。

同日のエセナおおたのスタッフとの意見交換会では、防災をテーマに熊本地震を振り返りながら意見を交わした。会のまとめとしては、家族がバラバラのときに被災したらどのように行動するかなどの家族会議を普段からしておくことや、簡易トイレを一人ひとつ持ち歩くことなど、日常に防災の意識を取り入れることが大切だとの意見が出た。

３日目の研修では、ファザーリング・ジャパンの東講師より、「イクメンやイクボスが当たり前の世の中にする」ための取組みについて楽しく学び、働き方、家族のあり方、自分の生き方について、とても前向きに自分自身を見つめ直す時間になった。最後の市民社会パートナーズの庄嶋講師からは、「地域は人材の宝庫」であり地域の人材の掘り起しが行政の重要な職務であること、また、地域住民への働きかけ方などについて分かりやすく解説いただいた。

今回の研修では、真摯に男女共同参画に取り組まれてきた講師の方々から、実践されてきた先進的な取組の数々を学んだ。この研修を無駄にしないよう、学んだことを市での取組みに活かし、男女共同参画から地域の魅力向上につなげられるよう、意欲を持って励みたいと思う。

最後に、このように有意義な研修を受ける機会をくださった県や職場の方々、楽しいお話や刺激をくださった研修生の皆様へ感謝したい。

県外研修の一コマ

「時代だなー」と感じたのが、県外研修１日目の夜、研修生と県職員の方とで行われた交流会での１コマだ。LINE で一瞬にして、みんながつながった。研修生の LINE グループが出来上がり、情報交換ができるようになったのだ。

２日目の夜は、思い思いのグループで集まり、別行動。グループ同士での LINE 合戦が始まった。「こんなところに来ましたよ。」とあるグループが LINE をすると、「こんな美味しいものを食べてるよ。」と別のグループがすぐさま応戦。私たちのグループも“負けないぞ”と大いに盛り上がった。楽しい話だけでなく、研修で感じたこと、これまで考えたことなど真剣に語り合う場もあり、大きな学びであった。私のグループの班長の話は素晴らしく、私たちより一歩向こう側が見えており、研修以上に刺激的であった。

大いに学び、大いに楽しみ、まるで学生時代のようであった。私の学生時代は LINE なんてなかったけど、仲間同士、“きずな”でつながっていた。きっと今回の研修で出会った人たちとは、LINE だけでなく、同じ志をもった仲間として、“きずな”でつながっていたいと思う。

玉屋　宏進（２班／荒尾市）

研修コラム

平成最後の地域リーダー研修３日間を凝縮させた報告書が完成した。１１月３日羽田空港に集合、３日間の研修、その後は各自で自主研修、研修生それぞれが職場や地域活動や家庭で熱意をもって自分の言葉で勉強したことを情報発信している。研修後は、私のもとへ班メンバーからその活動報告書等が届き、いち早く活動の情報を知ることができたことが編集係の特権だった。みな研修に参加する前の思いは一様で、一体じぶんに何ができるのだろうか？と漠然とした期待と不安があった。しかし、研修後は男女共同参画について知った情報を発信したり、自分たちの日常生活の中で自分にできることを発見し、それぞれの視点を持って積極的に活動している。このような熱意を引き出して下さった、講師の先生また担当職員の方や関係者の皆様に感謝したい。この報告書のタイトルは「Hey！Hey！Hey！未来へよ～そろ～３０」だが、このタイトル決定のいきさつは各班からアイデアを出し合い決定したものだ。未来の輝ける社会へゆっくりと追い風が吹いているように感じた。

宮本　京子（３班／菊池市）

自主企画研修報告

県外研修の結果を踏まえ、
それぞれで自主企画した研修を身近な場所で実施。

「思わず参加したくなる、自分らしい男女共同参画ワークショップ」

［１班：藤原　良弘（熊本市）］

日時	平成３０年１２月３日（月）、１２月２０日（木）
場所	モイスティーヌ　アベニールサロン
参加者	女性美容部員４名
形式	対話型ワークショップ
ねらい	・男女共同参画視点の提供 ・思わず男性が積極的に参加したくなる、自分らしい男女共同参画活動の推進
内容	① 県外研修で視聴したパンパースとユニ・チャームのＣＭを見てもらい、ＣＭについて感じたことついて対話する。 ② “自分らしい男女共同参画とは”というテーマについて、ワークショップ（ストーリー思考）形式で現状を振り返る。 ③ ②の結果を持ちより対話を行い、気づきをシェアする。 ④ 今日からできる小さなチャレンジ（baby step）宣言を行う。
感想等	・最初にＣＭを見てもらうことで、男女共同参画という言葉を使わずして、男女共同参画の視点を持ってもらえたのがよかった。結果、難しい話をすることなく、その後のワークをスムーズに行うことが可となった。 ・両親から受けた教育や、自分の子育てのやり方や家庭内の役割分担、夫の関わり方など幅広い範囲で、男女共同参画の視点からの本音トークがとびかった。参加者は全員、子育て中で共働きの既婚者。子育てや家事の役割分担に対してうまく行っているところ、改善してほしいところ、又は仕事を通しての自己実現について、夫や子供達の協力について感謝したい所など、現状を踏まえた非常に深く活発な対話の場をつくれたことで、参加者は協力し合いながらたくさんの気づきを得ることができた。 ・「片方は“みんなの為の一人”、もう片方は“一人の為のみんな”という印象を持った。子育てを頑張り、子育てを楽しむことの大切さに気づいた」というオムツのＣＭに対する感想が非常に心に響いた。 ・男性優位の社会を改善するというスタンスより、一人ひとりが活躍できる社会をつくるという目的論にすることで、夫婦間での協力的な活動につながるのではと強く感じた。

「男女共同参画研修報告会」

［１班：宮島　日登美（山鹿市）］

日時	平成３０年１１月２７日（火）　１０：００～１０：３０
場所	特別養護老人ホーム　和楽荘　事務所
参加者	総務課事務員　４名
形式	研修報告及び意見交換
ねらい	・研修の内容を報告し、情報を共有する。 ・男女共同参画社会の概念について関心を持っていただき、それぞれの環境等で活動出来る様に発信していく。
内容	・県外研修資料を基に時系列にピックアップした内容を資料作成し、研修での気づきや感想を加えた研修報告書を発表。 ・意見交換
感想等	今回、私が勤務する職場にて、同じ部署で勤務している職員に対して研修報告を行った。私が勤める職場は女性が占める割合も高く、これまで仕事と家事、育児を両立して来られた方や私のように現在進行中の方も多くいるため、男女共同参画に対して興味を抱いていただけるのではないかと考え研修報告会を開催した。 研修内容を報告する中で職員が一番興味を示したのは、横浜フォーラムとエセナおおたの事業内容であった。都心部での取組内容を報告したところ、「多種多様な相談に対応できる環境が整備されていることに驚いた。」「自分が受講してみたいと思う研修や講座も多く、内容が充実している」「利用者がそれぞれ生きやすく暮らしやすいスタイルを持っていて自由な雰囲気が感じられた。」「都市部と地方という違いはあるが、身近な場所でこの様な施設があると活動が活発に出来るのではないか」等と様々な意見があり、参加した職員も関心を持っていただいたのではないかと感じた。 「参画」とは単なる参加ではなく「主体的に意思決定の過程から参加する」ことを意味すると最初に県外研修講座で学んだが、自分の住む地域や家庭・職場等で課題を抱えている方達の為に職場での研修報告の際、身近な課題として男女共同参画の概念を含め発信できる機会をこの様に持てて良かったと思う。今後も、仕事や育児をしていく上で、地域や家庭に根差した社会づくりを目指して活動を行っていきたい。

「自主研修実施報告書」

［１班：戸塚　あや子（益城町）］

日時	平成３０年１２月７日（金）
場所	益城町役場仮設庁舎　１階会議室
参加者	男女共同参画社会推進懇話会　９名　　総務課職員　２名
形式	地域リーダー育成事業研修の研修報告
ねらい	男女共同参画は、災害復興にも我が家の些細なことにも世の中のすべてのことに関わることで、相手を思いやり個人を尊重してこそ良い社会作りになっていくことを伝える。
内容	益城町男女共同参画社会推進懇話会委員の皆さんに、神奈川県横浜市と東京都大田区における男女共同参画の推進がどのように展開されているのか、その説明と高橋由紀先生の「統計から考える日本の男女共同参画」を女性の雇用状況のグラフ等を用いて説明。また、浅野幸子先生の「女性の視点の防災と復興」について研修報告。さらに、「イクメンとイクボスが社会を変える」の東先生の話も報告した。最後、男女共同参画は、マイノリティであるがいろいろなことに関係するで〆る。
感想等	・男女共同参画について、「ためになりました」との声を聞いた。 ・質問が、「イクメンはあるけど、女の人には呼び名はないのか」とある。 ・「なぜ男性が孤独死するのか」男性と女性のマルチタスク能力の違い等話す。 ・浅野先生の研修報告の時は、実際に避難所で生活して現場を知っている益城の方達であるだけに、意見や感想が沢山聞かれた。震災後の混乱については、防災について準備等の認識の大切さを話す。 ・研修報告日の前日に、熊本市では「来年４月より、同姓カップルをパートナーとして、公的に認める「パートナーシップ制度」を実施する。」と大西市長が話される。その話題で賛否両論が飛び交った。 ・良い研修報告になったかと思う。

「地域リーダー研修参加報告」

［１班：澤永　智子（八代市）］

日時	平成３０年１１月１３日（火）
場所	八代市役所　千丁支所　人権政策課内
参加者	人権政策課職員　１５名
形式	研修報告会
ねらい	今回の研修の概要を報告し、情報を共有する
内容	・県外研修の内容を時系列にまとめて報告 ・研修を受けての気づきや学び、感想を発表 ・男女共同参画の視点が様々なところに必要であることを伝える
感想等	この報告会で、改めて県外研修の振り返りができ、よい機会をもつことができた。 　男女共同参画の視点が様々なところで必要であるということを、県外研修でうけた多くの講話の内容を報告することで伝えることができたと思っている。 　講話の中の、男性視点での男女共同参画と女性目線での防災復興についての内容は、所属課以外の職員にもぜひ聞いてほしい内容であるとも思った。 　セミナーでの啓発や地域づくり活動において実践されている方々の姿から、男女共同参画を推進する熱意というものを非常に感じ、良い影響を受けることができたことを改めて思い出し、今後、研修で学び得たこと、感じたことを自分なりにまわりの方々へ伝えていくことができたらと考えている。

「自主研修報告書」

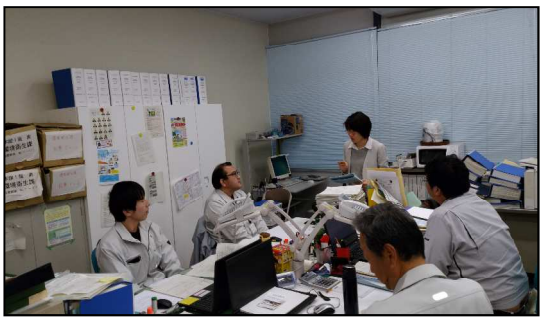
［１班：河野　彰慶（山鹿市）］

日時	平成３０年１１月１６日（金）
場所	山鹿市役所　人権啓発課　及び　自宅
参加者	市職員　７名、配偶者　１名
形式	研修報告
ねらい	・研修内容と自身が感じたことを報告し、情報共有を図る。 ・男女共同参画推進の他市例を紹介しながら、本市で行える事業の模索を図る。 ・家庭内で共同を意識し、お互いに暮らしやすい家庭を構築する。
内容	・（職場）研修復命書、パンフレットや研修資料等を回覧し、自身の感想と今後の男女共同参画推進事業の案を報告した。 ・（家庭）研修資料等を見せ、内容を伝え、今後のライフプランについて互いに話し合った。
感想等	・（職場）毎年１名職員が参加しており、人権啓発課職員から優先されるため、報告内容の重複も多々あったと思う。課内だけではなく、他部署の職員にも庁内ネットワーク等を用いて情報提供が必要だと感じた。情報提供をしつつ、次年度の育成事業の候補者を探したいと思う。 ・（自宅）株式会社ソラーレの話を中心に、家事の分担や今後のライフプランについて話し合いを行った。我が家では収入の割合によって、生活費の支出割合や家事分担を決定しているが、本研修を受講し、そのシステム（制度）の改修が必要だと強く感じた。その旨を配偶者に伝え、現在協議中である（まだ本格的に新制度へと移行はしていない）。女性、パートタイム、妻といった概念を踏まえつつも、あくまで１人の人間として配偶者を見て、家庭の共同経営責任者としてお互いに快適な生活が享受できるよう頑張りたいと思う。完全な余談かつ皆さんもご存知かもしれないが、ドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」の原作は、男女共同参画のテーマ（非正規雇用、ＬＧＢＴ、家事労働、結婚願望のない若者等）を主軸に物語が展開され、非常に参考になる書籍の一つである。これも参考にしつつ、河野家を更に快適な場としたい。

「自主研修報告書」

［１班：田上　恵美（益城町）］

日時	平成３０年１１月２０日（火）
場所	益城町役場　１階
参加者	町職員　６人
形式	研修報告及び意見交換会
ねらい	・研修の報告と意見交換を行い、職場での男女共同参画を考える。 ・男女共同参画の視点の重要性。
内容	・研修に参加した１名が報告。 ・持ち帰った資料等を使用し、自分の視点で感想を交えながら報告。 （内容） 　見学した施設について、外見がどんな素晴らしい施設であっても、人のアイディアや広報の仕方等が重要であることを伝えた。防災と男女共同参画の視点がどのようにつながるのか、災害の困難は平等には来ないという事を改めて考えさせられたことを伝えた。女性は家事、男性は仕事の固定的な役割分担は社会が作ったものであり、１人１人の意見が尊重された訳でないことが、不平不満につながること。個々にとって、家庭にとって、地域社会にとって何が大事か自ら気づき自らの意志で行動することの重要性を伝えた。 ・職員より質疑応答。
感想等	業務終了後であったが、皆さん真剣に聞いていただいた。災害については、皆さんが納得されて頷かれたのが印象的であった。 　女性は家事、男性は仕事の固定的な役割分担は社会が作ったものであるとの内容に対して「自分の妻は、専業主婦がよいと言っている。」と言われたが、お互いに不満がなければ問題ないと伝えた。ちなみに私の夫は、妻が稼いで収入が増えた方がよいから家事を手伝うという考えである。お互い自立した関係の方が病気等になった時に、助け合うことができるし、生活費等の心配ごとも少ないのではないかと思われる。また、女性が外で働くことは視野が広がり夫との会話が愚痴や子どものことばかりにならないのではないだろうか？



「研修報告会」

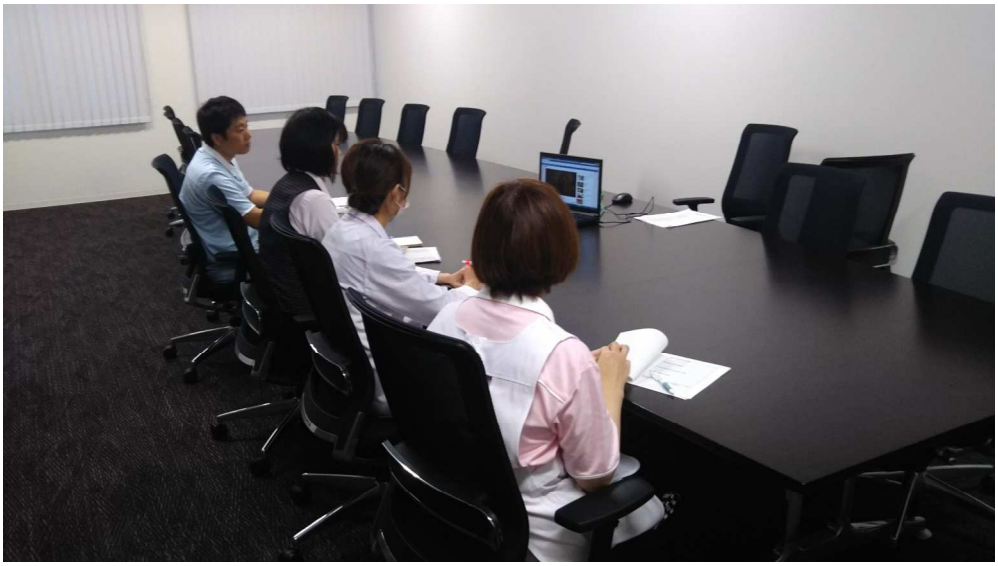
［２班：切通　陽子（荒尾市）］

日時	平成３０年１１月３０日（金）
場所	荒尾市中央公民館
参加者	公民館職員　６名
形式	研修報告、意見交換
ねらい	地域リーダー育成事業に参加して学んだことや感じたことを報告し、「男女共同参画」がなぜ必要なのかと、これから進めていく為に必要なことは何かを意見交換し、関心を持ってもらう。
内容	・事前研修での、なぜ男女共同参画が必要なのかということ ・県外研修で学んだこと、感じたこと ・これから、公民館事業をすすめるにあたってできることは何か ・男女共同参画という意識をもつこと
感想等	公民館職員は館長を除くと全員女性という職場の中、私もそうだったが、「男女共同参画」というと、「男女平等」という意味で捉えていた人が多かった。その中で、熊本大学の鈴木教授のお話にあった、女性が男性に合わせるのではなく、男性が女性を理解してバランスが取れるということ、それからファザーリング・ジャパンの東先生の講話の中で見せていただいたＣＭの話をすると、とても共感してもらい、女性の社会進出の重要さを分かってもらえたようだった。 また、エセナおおたで学んだ事業の企画については、今の仕事に直結する内容であり、これまでの事業内容を振り返ること、そして、これからの事業計画をする際に大いに役立てていこうという話ができた。 まだ伝えきれないことが多かったので、これからも事ある毎に伝えていき、仕事に家庭に繋げていければと思う。

「新入職員研修プログラム」

［２班：玉屋　宏進（荒尾市）］

日時	平成３０年１１月１４日（金）
場所	有働病院　会議室
参加者	有働病院　新入職員（４名）
形式	講義・意見交換
ねらい	男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業・県外研修で学んだ内容を新入職員の病院内研修プログラムに組み込むことで、毎年入職してくる職員に対し、継続的に男女共同参画のアプローチを行い、男女共同参画の意識をもった職員を育成していくことを目的とする。
内容	男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業・県外研修で学んだ講義の内容について説明を行った。特に、ＮＰＯ法人ファザーリング・ジャパンの東浩司の講義であった、日本と海外のオムツＣＭを観てもらい、感想を話し合ってもらい、物事を考えるにあたって、男性、女性の偏りがあってはならず、お互い協力して携わっていくことの重要性について説明した。
感想等	男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業・県外研修で学んだことは、私にとってとても価値のあるものだった。この想いを一過性のもので終わらせてはいけないという想いが強く、新入職員研修プログラムに組み込むことで、継続的な活動につながると考えた。オムツＣＭでは、活発な意見が飛び交い、とても有意義なものとなった。今後も継続していき、有働病院の職員の男女共同参画の意識向上に努めていきたい。また、何事に対しても、意識的に参加していくことが大切ということも伝えることができ、職員の団結力向上にもつながるという相乗効果も生み、とても良いプログラムが出来上がったと思う。



「研修報告会」

［２班：出口　こずえ（大津町）］

日時	平成３０年１１月９日（金）
場所	大津町役場　２Ｆ大会議室
参加者	大津町男女共同参画審議会
形式	研修報告
ねらい	県外研修で学んだ事の報告と情報共有。
内容	地域リーダー研修報告書（視察・講話・交流）をまとめた資料を配布。 上記資料の中で講義「イクメンとイクボスが社会を変える」をピックアップし、質問形式で共有。他質疑応答・意見交換
感想等	今回の研修報告会として、大津町男女共同参画審議会の会議の中で発表を行った。数名の方が私と同じように、男女共同参画地域リーダー育成事業等の県外研修経験者であり、自分の体験を思い返されながら、共感して聞いていただいた。 　これからの男性参画型の子育てを主に話しをした。 　ファザーリング・ジャパンの理事である、東浩司氏の講義の中であった「男性が育休を取れない、取らない理由」等を発表し、一緒に考えてもらい、情報を共有した。 　今回の研修参加への目的と今後の自分自身の課題を、今回の研修を通じて、視点を変え、違う方向から見る事・考える事を学び得る事が出来た。 男女共同参画は、人それぞれの課題に対して、必要な人や家族、会社、地域がそれぞれの分野でまとまり、参画していくことが大切だ。 その中で、私自身が役に立てるように努力していきたいと思った。

「防災と男女共同参画」

［２班：西　卓也（荒尾市）］

日時	平成３０年１１月２０日（火）
場所	荒尾市役所くらしいきいき課 防災担当執務室
参加者	くらしいきいき課交通防災係（課長以下８名）
形式	研修報告
ねらい	今回の研修で得た、「正しい男女共同参画の考え方、捉え方」を市の防災担当職員に広めることで、市が実施する各種防災対策を検討する中で、男女共同参画の視点を踏まえた取組みを行うことができることを目的とする。
内容	荒尾市の防災担当部署である、くらしいきいき課において、防災等従事職員に対し、研修で得た男女共同参画の考え方や捉え方について伝えた。 これまで、過去の災害を教訓として、防災対策に男女共同参画の視点を取り入れていくことが必須になっているところであるが、どのように取組んでいくかは明確ではなかった。今回の研修で学んだ「男女共同参画のバランス」について周知することができた。 市においては、災害時に防災対策を記載した防災計画の作成や防災訓練、備蓄品の計画、地域防災の取組みなど、それぞれの担当が男女共同参画の視点を取り入れやすいよう解説を行った。 また、防災計画の修正にあたり、男女共同参画担当部局との連携も不可欠であることを共通認識し、情報共有を行いながら、災害時における体制づくりを構築していくことを確認した。
感想等	今回の自主研修が最終形ではなく、それぞれの担当が防災施策を検討し実行する際に、正しい男女共同参画の視点を踏まえた内容にすることが求められるため、実際に、事業等が実行される際に、正しい視点になっているかを確認する必要があると感じた。 先入観として一般に広まっている男女共同参画社会は本来、法や指針等で示されているそれとは大きく異なり、正しい理解が重要であることがわかった。

「地域リーダー研修報告」

［２班：宮川　博貴（玉名市）］

日時	平成３０年１１月２８日（水）
場所	玉名市役所　３Ｆ　庁議室
参加者	玉名市男女共同参画社会　行政推進委員　１３名 人権啓発課　男女共同参画係　４名
形式	資料を基にした研修報告会
ねらい	・玉名市男女共同参画社会行政推進委員会の委員に向け、男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業、県外研修の自主研修で、男女共同参画社会の必要性の再認識をはかる
内容	・地域リーダー県外研修時の施設紹介と研修内容の説明 ・副市長をはじめ、関係部長と女性課長、女性代表職員で構成される玉名市男女共同参画社会行政推進委員会にて、自主研修を行った。
感想等	・今回、県外研修で見たこと、学んだことを玉名市にも、男女共同参画社会が、いかに必要か再認識してもらう為に、全ての施設、全ての講話の説明、感想を伝えることが出来、とても良かった。委員の方からも、意見も出て、実りある報告会になった。 ・このような報告会は初めての経験で、緊張し不安だったが、この報告会を機に、行政として男女共同参画の実現に向けて、更なる施策の推進を図ることの意識が高まったと思う。そのことを、市民に対し継続して周知・啓発していくことで、男女共同参画社会の早期実現につながると思う。

「研修報告会」

［２班：氏家　良子（菊陽町）］

日時	平成３０年１２月１７日（月）
場所	菊陽町三里木町民センター　地域センター
参加者	菊陽町男女共同参画さんさんの会　　１２名
形式	研修報告
ねらい	先進地での取り組みを報告することで、今まで取り組んでいなかったことや新たな発見を共有し、今後の男女共同参画社会推進のヒントにする。
内容	今回の研修の日程ごとに勉強した内容を報告。 その中で、新しい取り組みや自分が興味を持ったことを中心に報告。
感想等	今回の研修で、男女共同参画を啓発・推進していく施設の在り方を学ぶことができた。 報告会では、研修に行った先進地の施設運営、各施設が独自に行っている事業等の紹介をはじめ、講演の内容についての報告を行った。 先進地である男女共同参画センター横浜（フォーラム）とエセナおおたでは、「指定管理者制度」を活用し、いろいろな講座などを通して男女共同参画の啓発、推進活動が行われている事例を発表した。本町では行われていない「指定管理者制度」に興味を持たれた方が多数いて、そのことについての意見が集中した。 本町で男女共同参画の推進に力を入れている、菊陽町男女共同参画さんさんの会の会員より、男女共同参画事業についてはマンネリ化しているため、「指定管理者制度」を活用して新しい視点で働く婦人の家などの施設の運営ができないかとの意見や、男女共同参画にのみとらわれないで、アルコール依存や薬物依存などのいろいろな社会的な問題にも目を向けることで課題を整理し、取り組みを拡げていくことで、町民にもアピールができるのではないかとの意見も出た。 今回の研修報告会を経ての感想は、行政の立場での男女共同参画の推進、働く婦人の家の館長としての施設の運営、業務のあり方を見直し、いろいろな事業に挑戦、発展させることができたらと思う。

「自主研修報告」

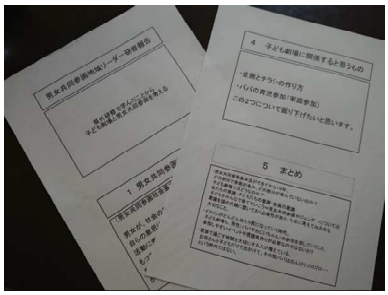
「３班　上野　智美（菊池市）]

日時	①平成３０年１２月１８日（火）　②平成３０年１２月２７日（木）
場所	①友人宅　②シェアオフィス
参加者	①友人（大人２名、子ども２名）②友人５名
形式	研修報告後、お茶会形式で情報（意見）交換
ねらい	・研修で学んだことを伝え、感想を参加者でシェアし、それに対しての情報提供と意見交換をし、内容を共有する。 ・今後に繋げる。
内容	・男女共同参画について（情報提供） ・それぞれの家庭・職場環境等について情報交換（身近なことをテーマにあげ、情報交換）
感想等	《参加者からの感想》 ①子育て中の若いママ達 ・やはり、子育ての悩みや夫とのコミュニケーションで悩まれていた。 ・お二人共、地域の集まれる場所を活用されていたので、そこに行くことで、気分転換やストレス解消に繋がっているとの話もあった。 ・夫が、県の職員という事だったが、育休等の環境はまだまだ整っているようには感じないと言われていた。また、もう一人は、一般会社にお勤めだが、毎日朝から夜遅くまで仕事で、休みも十分にない環境という事で、日本特有のワーク・ライフ・バランスから遠い実情が身近にあると改めて感じた。 ②３０、４０代の独身 ・“男女共同参画”という言葉を初めて聞いた。聞いたことはあったが、意味や活動内容を知らない。という声がほとんどだった。 ・朝から夜遅くまでの勤務に、休日も少ない。ワーク・ライフ・バランスの話を聞いて、全然バランスがとれていないことに気づいた。しかし、人手不足の職場環境や給料面を考えると、解決するには多くの問題があると思った。 《自分の感想》 今回の自主研修をすることで、改めて、一人一人が様々な違った環境の下で生活をし、問題や悩みを抱えながら日々を送っていることを知れたので、今回限りではなく、今後も、活動の一部に加え、情報提供や意見交換を続けていくことにする。一人でも多くの人が、自分を生かした楽しい人生を送っていけるように、小さい活動かもしれないが、継続していきたい。

「男女共同参画地域リーダー研修報告」

［３班：株元　知子（合志市）］

日時	平成３０年１１月３０日（金）
場所	熊本市子ども劇場事務局
参加者	事務局スタッフ、役員　９名
形式	パワーポイント（手元資料）を用いて、研修の報告および意見交換を行った
ねらい	県外研修で学んだことから、子ども劇場と男女共同参画を考える
内容	・「男女共同参画社会」について意味の説明 ・研修内容の報告（講師の紹介・講義の内容など） ・その中で子ども劇場にも関係すると思うものを２つあげて掘り下げた （◎企画とチラシの作り方　◎パパの育児参加（家庭参加）） ・まとめ
感想等	《感想》 ・「統計から考える日本の男女共同参画」の資料は、グラフや統計で見ることで、熊本県における働く女性の現状などについて、とても分かりやすく、実感を持って考えることができた。 ・男性の家庭参加については、自分の夫に今から変わってもらうのは大変（無理）。せめて子どもの世代・息子には率先して子育てに参加するなどして欲しいと思うので、子どもたちにしっかり伝えていきたい。 ・子どもたちにも伝えたい。 ・家庭の中（日常の会話）で意識をもって伝えていく。 ・以前、熊本で「行列のできる講座とチラシの作り方」の講演会に参加したことがあったが、忘れていたところもあり、改めて学びなおすことができた。 《実践》 県外研修の後、チラシづくりに講座で学んだことを活かしてみた。 右上のゴールデンスポットの位置に目立たせたい文言を配置すること。学習会など「難しそう」と思わせるような言葉は使わない。タイトルと日時・場所を目立たせる。など…。 すると、今まで同じような講座を企画しても１０人以下しか申し込みがなかったのが、なんと今回は倍以上の申し込みがあった。 所属団体の他の地区（エリア）でもそんなに申し込みがあったことがなかったため、驚かれ「ぜひチラシの作り方を教えてほしい」と依頼を受けた。 チラシの作り方を伝えるときに男女共同参画についても一緒に話していければいいと思う。



「研修報告書」

［３班：永田　尚稔（和水町）］

日時	平成３０年１１月２７日（火）１４：３０～１６：００
場所	和水町役場２階会議室
参加者	和水町男女共同参画懇話会会員１２名、（町会議員１名含む）
形式	第３回和水町男女共同参画懇話会定例会に参加して県外研修の報告を行った。
ねらい	・地域リーダー育成研修県外研修の活動報告について
内容	・男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業活動の報告 ・平成３１年度活動計画についての検討
感想等	・本日参加されたメンバーの内、数人は以前、男女共同参画地域リーダー育成研修に参加された方だったので、話の内容を私以上に理解されていた。 ・７５歳である町議会議員が貴重な意見を述べられた。かつて約２～３０年前に妻が病気で入院していた時、子どもたちの食事の準備のためスーパーマーケットへ買い物に行ったら、あなたは、何をされているのかと地元住民から失笑された経験があった。当時、男性は食事の準備はしないならわしだった。 ・４世代家族で育った４０歳代の男性が食事の準備に台所へ入ったら、母・祖母から男性は台所へ入ったらだめだと言われた。 ・現在の４０歳以内の男性は台所へ入り食事準備ができるが、年齢的に６０歳以上は「男性厨房に入らず」という台所に近づけない風習があった。 ・今後、私が参加している組織のメンバーにもイクメン・イクジイ・イクボスそれにジェンダーについて少しずつでも説明していきたい。

「男女共同参画社会研修報告会」

［３班：東　洋子（長洲町）］

日時	平成３０年１１月２６日（月）
場所	長洲町図書館
参加者	生涯学習課職員　３名、図書館職員５名　計８名
形式	図書館ミーティングでの報告会
ねらい	・研修の報告（情報・施設の紹介） ・研修で得た情報をもとに、理解の促進をうながす。 ・男女共同参加社会について考える
内容	作成した資料をもとに、男女共同参画社会研修で学んだことを伝え、考えてもらう
感想等	・研修についての説明はわかりやすかった。 ・男女共同参画社会について家庭でも話し合おうと思う。 ・それぞれの家庭ではできても、地域に広めていこうとなると難しいと思う（まだまだジェンダー意識が強く残っている世代も多い） ・イクボス、イクメンにならなくてはいけないが、女性の多い職場では同性のパワハラも多いと聞くので、そこも問題ではないか？ ・「フォーラム」の情報ライブラリの写真はとても参考になる。新刊の告知の方法や、年代別お薦め本など参考にしていきたい。町の図書館でも「男女共同参画」のコーナーなど情報発信の場として今後検討していきたい。 ・人はすぐには変われないが、自分がいいと思うことをやり続けてみる。 自分で作成した資料をもとに報告会を開いた。自分自身の振り返りと改めて男女共同参画について考える機会となった。

「男女共同参画研修報告」

［３班：宮本　京子（菊池市）］

日時	平成３０年１２月２５日（火）
場所	菊池市役所
参加者	菊池市役所市民課職員　８名
形式	研修報告会
ねらい	身近な男女共同参画社会の課題を職場の方と共有する
内容	研修で学んだ男女共同参画統計を使いながら、なぜ働く女性の非正規雇用は増加し続けているのか？統計資料を参考にしながら、課題を明確にする。
感想等	職場で人権同和課内研修と併せて、男女共同参画研修の報告を行った。 高橋先生から教えていただいた統計資料を用いることや、東先生から教えていただいた男性に響く伝え方の手法を利用して、私たちの身の回りにある課題や問題を実感できるよう話をしてみた。結果はどうであっただろうか？ 今回の研修報告では「働く女性の非正規雇用」についてテーマを１つに絞り、課題や問題を共有して、だから男女共同参画は必要だし社会のあり方に問題意識をもつことが大切であるということを自分でも振り返ることができたと思う。 先日新聞に掲載された記事で、県内市町村職員の非正規雇用は３分の１で、行政サービスが非正規頼みになっている実態が浮き彫りとなった。働く女性の非正規雇用問題は身の回りにある社会の課題である。しかし今回の研修に参加する前の自分であったら、働く女性に関する課題について気づかず問題意識を持たなかったと思う。 今回の研修に参加し、そして自主研修をおこなうことで、男女共同参画社会に対する認識がガラリと変った。またより深く理解することができた。研修報告後の意見交換の中で、ワーク・ライフ・バランスのことや女性活躍推進法について、そして国によっては女性の政治家が活躍してることなどの声があがり、意見を出し合った。これからも職場の中で男女共同参画社会の考え方や捉え方が少しでも深まることを目標に、これからも明るい職場づくりに貢献したいと思う。

「研修報告会」

［３班：髙木　慎一郎（和水町）］

日時	平成３０年１１月２７日（火）
場所	和水町役場本庁　庁議室
参加者	和水町男女共同参画懇話会委員７名、和水町職員３名　一般参加１名
形式	研修報告会
ねらい	懇話会委員との情報共有を図るため、研修で学んだことを報告し、これからの和水町における男女共同参画社会に繋がるよう実施した。
内容	２泊３日の県外研修の内容を簡単にまとめた資料を作成し、それをもとに報告や討論を行った。 ・各施設の役割について ・非正規職員シングル女性の現状について ・行列のできる講座とチラシの作り方について ・分科会（意見交換会）の内容について ・女性の視点の防災と復興について ・イクメンとイクボスの重要性について ・男女共同参画視点での地域づくりとは
感想等	２泊３日の研修で学んだことや感じたことを、人に伝えることの難しさを実感したところだが、皆さん最後まで真剣に話を聞いていただき、終わった後の講評を聞いて、ほっとした。それと同時に男女共同参加社会では、お互いが認め合うことがとても大切だということをあらためて感じた。 委員の方々との討論の中で、一度に変えようとすると地域によっては反発が起きるため、少しずつ地道に男女共同参画を広めていき、いつの間にか男女共同参画社会が実現しているのが理想だということがわかった。 今回の報告で、委員の皆さんに伝えたことや新たに学んだことを地域の人々に少しずつでも伝えていけるように、普段から意識することや行動力を身に着けようと思う。

「男女共同参画自主研修報告会」

［３班：浜田　美由紀（長洲町）］

日時	① 平成３０年１１月２１日（水）　② 平成３０年１２月１日（土）
場所	① 長洲町役場　② 長洲ひまわり幼稚園
参加者	① １２名　② １００名
形式	① 町の男女共同参画社会推進懇話会の中で研修報告、質疑応答 ② 家庭教育子育て講座の中で研修内容の報告実施
ねらい	① 研修を通して学んだことや研修地域の事例等を伝えることで、自町の問題点や参考にしたいことなどをそれぞれ考えてもらう。 ② テーマの「家庭教育」に合わせて「イクメン」「地区メン」「ワーク・ライフ・バランス」についての話をする。
内容	① 町の男女共同参画社会推進懇話会の定例会議の中で自作の研修報告資料（冊子）をもとに研修報告を行った。 ② 町内のひまわり幼稚園で開催した「家庭教育子育て講座」のくまもと「親の学び」で、「子育て」についてプレゼンテーション形式で話を進める。その中で「イクメン」「地区メン」「ワーク・ライフ・バランス」について話をした。
感想等	① 自作の研修報告資料を参加者に配布し、資料に沿って説明を行い、質疑応答形式で進めた。会議の冒頭での報告という事もあり質問が出なかったが、会議終了後、統計についてもっと話を聞きたかったという声があったとのことだった。 ② 幼稚園からの依頼でくまもと「親の学び」プログラム講座を開催した。家庭教育や子育て関連の話をということで、研修で学んできた「イクメン」「地区メン」「ワーク・ライフ・バランス」に関する話を盛り込んだ。２０代～３０代の参加者が多く、熱心に耳を傾けていただき、終了後のアンケートの感想でも「イクメンの話、よかったです。主人も一緒に話が聞けたらよかったなと思いました。」「父親が子育てするメリットは、子どもの健やかな成長にいい影響があるだけでなく、母親も、時間と精神的にゆとりができ、子育てに前向きになれると聞き、とても勉強になりました。」などの前向きな感想が寄せられた。今後も、くまもと「親の学び」プログラム講座などに男女共同参画研修で学んだことを少しずつ参加者に伝えていくことで、町内の男女共同参画社会の推進に繋げていければと思う。 町男女共同参画社会推進懇話会での報告 ひまわり幼稚園での研修報告（くまもと「親の学び」プログラム）

「男女共同参画について語ろう会」

［４班：松本　由香里（天草市）］

日時	平成３０年１１月９日（金）、１１月１５日（木）
場所	天草市立栖本小学校、松本歯科医院
参加者	栖本小読み聞かせボランティア、校長・教頭先生６名、松本歯科医院職員５名
形式	研修報告会・意見交換会
ねらい	地域リーダー育成事業にて学んだことや考えたことを発表し、男女共同参画について意見交換をすることで、未来に向けて男女共同参画を自分の事として意識するきっかけを作る。
内容	・県外研修の内容報告。 ・参加者の生活の現状について話してもらい、男女共同参画社会、ワーク・ライフ・バランスを実現するために、どのように意識を変化させるべきかディスカッションする。
感想等	意見交換に参加してくださった方々は、３０歳代から６０歳代まで幅広かったにも関わらず、天草の中では、いまだに家を守るのは女性という考えが根深く残っていると感じた。 ここ天草は、まだまだ男女を上下関係でとらえる感覚が残っており、改めてこの問題について考えることが無かったと新鮮な気持ちで意見を述べてくれる人が多かった。 男女共同参画（イコール）＝男女平等と考えている人が多い。しかし、男女共同参画はお互いが協力して作り上げていく事であり、お互いの権利を主張しあう事ではない。それぞれの事情に合わせて譲り合い許し合って生活のルールを作る関係でありたい。お互いが尊敬しあい理解しあえば、おのずと生活に余裕と笑顔と幸せがやってくると感じた。 今回の研修に参加したことで、こんなにもこの問題でディスカッションできたことは幸せだった。自分自身も話し合う中で考えを深くすることができた。今後も男女共同参画について問題提起をしていきたい。

「地域防災に女性の視点を生かそう」

［４班：東　喜美子（宇土市）］

日時	平成３０年１１月９日（金）、１１月１１日(日)
場所	筋湯温泉旅館　白滝、　自宅
参加者	友人５名、友人１名
形式	研修内容の報告、備蓄品の展示
ねらい	① 研修で学んだことを報告し、避難所運営時に女性目線の運営が必要であることを理解してもらう。 ② 非常時の備蓄品の参考にしてもらう。
内容	① 浅野幸子氏の講話「女性の視点の防災と復興」の内容から、避難所は女性にとっては困難な問題があることを伝え、学習して意見を言える人がいるかいないかで避難所運営が違ってくるという話をした。 ② 女性関連死の原因として、膀胱炎や婦人科疾患、エコノミークラス症候群が多かったことを伝えた。 ③ 避難所運営には女性も加わるべきであることを伝えた。 ④ エセナおおたの防災備蓄レディースセットを参考に、簡易トイレや使い捨て下着などの備蓄品を準備し、実際に見てもらった。
感想等	熊本地震を経験した後であり、災害時の備えはどの家でも、ある程度はしているだろうと思っていた。しかし、今回参加してくれた友人たちは、“準備していない”とのことであった。その事に少し驚いた。 今回の自主研修は、女性にとっては大きな問題となるであろう“トイレ”に力を入れることにした。ホームセンターや１００円ショップ、カー用品の販売店を回り、数種類の簡易トイレを購入し、使い捨て下着やウェットティッシュ、携帯水タンクなどを準備し、実際に見てもらうことにした。 友人たちが一番興味を示してくれたのは水タンクであった。それは、水が一番必要となるものだから、備品として準備してくれたら嬉しいと思った。 熊本地震で家が全壊し、避難所で生活していた友人の話も聞くことができた。そこでは、足音や話声でほとんど眠れず、また小さな子供に対し、“うるさい”と怒鳴る男性がいたり、高齢女性のオムツ交換時はプライバシーが保たれるような場所がなく、女性たちが後ろ向きに輪をつくり、その中で交換していたという話を聞くことができた。 避難所の実際を知り、あらためて女性の視点を取り入れた運営の必要性を認識した。

「研修報告会」

［４班：入江　孝美（宇城市）］

日　時	平成３０年１１月２０日（火）
場　所	宇城市役所　新館第３会議室
参加者	宇城市男女共同参画社会推進委員１２名、市職員３名
形　式	研修報告、質疑応答
ねらい	・研修で得た情報の共有 ・先進地の活動内容を学び、自分たちにできる活動について考える。
内　容	宇城市男女共同参画社会推進委員会の第３回自主勉強会で行った。
感想等	参加者は、既に男女共同参画社会の推進に貢献している現役の委員会のメンバーで、どのような講義を受けてきたか、また、今後、どのような活動すべきか、どう学んできたかに興味をもって、私の報告に耳を傾けてもらった。 ３日間講義を受けて一番印象に残った「今、男性をどう共同参画に引き込むかという手段の紹介と効果について」を紹介し、この手段を地域活動に活用、応用し、地域の男女共同参画社会の構築に努力したい。そして、「なぜ今、男女共同参画社会の推進なのか」、少しずつでも男性陣、女性陣が理解したのであれば、今後、地域がどんな境遇にあっても、誰もが元気に乗り越えられるだろうという思いを伝えた。 私は、男女共同参画社会は男女平等参加社会ではなく、個人個人の能力、特性を尊重し認め合って、それぞれの自立を支援しながら共に生きていく社会であると思った。

「職場や家庭、地域におけるコミュニケーションについて」

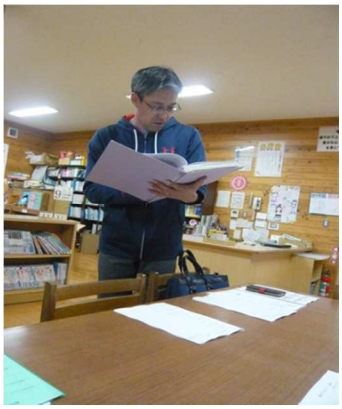
［４班：岡田　恵（天草市）］

日　時	平成３０年１１月１６日（金）
場　所	男女共同参画センター　ぽぽらす
参加者	市民活動サポート事業「あまみんカフェ」参加者（市民）１５名
形　式	研修報告及び意見交換会
ねらい	研修の学びの中で、地域の方へ男女共同参画の視点から見た職場や家庭、地域におけるコミュニケーションについて考えてもらう。
内　容	・みなさんの身近なところでの男女共同参画について ・イクメンとイクボスの役割について ・父親の笑顔や育児参加が与える家族への影響について
感想等	最終日の東浩司さんの「イクメンとイクボスが社会を変える」を聴き、東さん自身の男女共同参画意識の変化や、家族のための生活スタイルの見直しにとても感動した。私がワーク・ライフ・バランスや男女共同参画推進の啓発事業などに携わる中で、まだまだ私自身の中に残っている固定観念が払しょくされたように感じた。そして、私にできることを考える機会となった。 そこで、自主研修では、子育て真っ只中の核家族の現状を見て、イクメンを応援することが女性活躍（働きやすさ）にもつながることや、そのためには職場や家庭、地域社会においてのイクボスの存在が重要であることなど、「男女共同参画の視点から見た職場や家庭におけるコミュニケーションについて」を伝えることにした。 中でも、イクメンを応援するためには、父親自身の意識を変えることはもちろんのことだが、取り巻く職場や家庭、地域の環境の影響は大きいと思った。参加者の多くは５０歳代以上で、みなさん自身の家庭や地域に置き換え、家庭や地域ではみなさんがイクボスになることなど具体例をあげ、考えてもらい、共感してもらえたことが何よりだった。 この自主研修を通して一番伝えたかったことは、父親（イクメン）が家族（母親や子ども）に与える影響がとても大きいことをあらためて気づかされたことだった。これからも市民や地域、家族に向けて、分かりやすい男女共同参画の意識啓発のための情報の受発信など、私にできる小さなことから役割を果たしていきたい。

「男女共同参画研修報告会」

［４班：中村　健一（天草市）］

日　時	平成３０年１１月２７日（火）
場　所	天草市立亀川小学校
参加者	ミニバスケットクラブチーム保護者役員　参加者１０名
形　式	研修報告会
ねらい	研修で学んだことを報告共有し、意識を深めてもらう。 報告することにより自分自身も再確認する。
内　容	県外研修の資料を用いて ・男女共同参画とは？言葉の意味、法律などを説明 ・時代の流れ、なぜイクメン？について ・イクボス？について ・まとめ
感想等	地域の人に聞いてほしいと思い、子どものバスケットボールクラブチームの保護者役員会での発表を行った。「男女共同参画」という言葉は知っていたが、実際どんなことが共同参画なのか分からない様子だった。言葉の意味や法律の制定など関連を話すと納得されていた。 　主に、「ファザーリング・ジャパン理事 東浩司氏」の講話の資料を基に報告を行った。イクメン→イクジイ→イクボスの話をしていると、参加者からは「うちの社長に聞かせたい」、「そだね！やっぱりトップが変わらんとねぇ～」などの声が聞こえてきた。子どもの年齢も近いため、保護者も同じ世代であり、家庭や地域行事など、比較的お互いに協力している感じを受けた。しかし、自分が無理な時には夫に頼むとの声もあり、もう少し男性参加が必要だとも感じた。 　「いい父親ではなく　笑っている父親になろう！」 　「まずは自分が太陽になろう！～周りを暗いと嘆くのではなく、自分が太陽になって輝けばいい」と講話であった。 　私は、完全な男女平等の実現は非常に難しいと思うが、お互いに意識し、協力し、笑っている家庭が大切だと思う。 　今後も身近なところから、意識啓発、情報発信など行っていきたい。



「研修報告会」

［４班：河野　史治（宇土市）］

日時	平成３０年１２月１７日（月）
場所	宇土市役所仮設庁舎２Ｆ会議室１
参加者	まちづくり推進課職員　４名
形式	研修報告及び意見交換会
ねらい	地域リーダー研修を通して学んだことを報告し、男女共同参画の推進がどうして必要なのかを知ってもらう。そして、それを自ら行動に移し、さらには、周りに広めてもらうことがねらい。
内容	・事前研修～県外研修の中から興味や関心を持ちやすいテーマに絞って報告 ・本研修を通して感じたことや今後行っていきたいことを報告 ・意見交換
感想等	私が所属する部署の職員を対象に研修報告会を実施した。とても有意義な研修であったことが伝わってきたという意見があり、嬉しかった。私もこの育成事業に参加してみたいという声もあった。 また、人前で研修を実施することが初めてだった私にとって、とても貴重な経験になった。上手く伝えることができなかった部分など課題も多く感じたが、このような研修を今後も続けていきながら、自分自身の成長と男女共同参画社会の推進につなげていきたいと思う。それと、個人レポートで掲げた決意「育児休業の取得」をここで宣言することができた。宇土市役所における男性の育児休業取得人数は０人である。まずは、私が初めての取得者となり、育児休業の取得を希望する男性が取得しやすい環境づくりに貢献したい。

「研修報告会」

［４班：田嶋　智子（宇城市）］

日時	平成３０年１１月２０日（火）
場所	宇城市役所　新館第３会議室
参加者	宇城市男女共同参画社会推進委員１２名、市職員３名
形式	研修報告、質疑応答
ねらい	・研修で得た情報の共有 ・先進地の活動内容を学び、自分たちにできる活動について考える。
内容	宇城市男女共同参画社会推進委員会の第３回自主勉強会で行った。
感想等	参加者は宇城市で積極的に男女共同参画社会の促進を進めている方々であり、熱心に話を聞いていただいた。一般研修生の入江孝美氏と一緒に報告を行ったため、私は１～２日目の研修について報告をした。 主に非正規シングル女性の困難やイベントを行うときに「対象を徹底的に絞る」ことの大切さを話した。また、防災に関する意見交換会を行い、日常に防災の意識を家族・個人単位で取り入れることが大切との意見が出たことを伝え、「自分のことは自分で」の精神で簡易トイレを一人ひとつ持ち歩くことなど具体的な例を挙げた。 報告を終えて、講師から私が受けたあの熱量を伝える技量の無さを反省し、まずは自分自身が男女共同参画についての理解をさらに深められるよう、日々の業務に限らず日常生活でも意識して能動的に動いていこうと決めた。

編集後記

編集係の中で、表紙も担当させてもらったが、研修中に「何でもやってみよう」との教えがあり、「批判する前にまずやってみよう」というマイ方針も持っていたので挑戦してみた。そう思えば団長の役も勇気を出して挙手すればよかったなぁと少し反省する機会にもなった。人生は１回しかないので今後このような後悔がないようにしたい。

河野　彰慶（１班／山鹿市）

研修報告書をいろいろな人に読んでもらいたい！編集係になって、率直に思ったことだ。私にとって今回の研修はとても貴重なもので、それを伝えることができる、この報告書作成に編集係として深く携われたことに感謝の気持ちでいっぱいだ。これから、この報告書をもって、多くの人たちに、男女共同参画の話をしていこうと思う。

玉屋　宏進（２班／荒尾市）

パソコン操作は慣れていると多少自信があったので、編集係に手をあげた。ところが〆切前のこと、いざ提出！送信ボタンを押したが何度も提出に失敗してしまった。。。編集係になって、班の皆さんから届いた研修レポートや写真を見ながら、研修を思い出した。編集係になって幸運だったのは研修後も班の皆さんとつながっていて研修の余韻に長く浸れたことだ。県の担当者様また研修の機会を下さった職場の皆さん心から感謝したい。

宮本　京子（３班／菊池市）

班のみなさんから届く研修報告書を読んで、研修での気づきや学びをすぐに発信され、自分ができることから実践したいというポジティブな気持ちが伝わってきた。

この研修に楽しく参加できたのは、快く引き受けていただいた永田団長をはじめ、参加者のみなさん、真田課長、猪俣主事、講師の方々、職場の同僚や、家族のおかげであり、感謝したい。

岡田　恵（４班／天草市）

平成３０年度
男女共同参画社会づくり
地域リーダー育成事業
研修報告書

平成３１年３月
熊本県環境生活部県民生活局男女参画・協働推進課
〒８６２－８５７０
熊本市中央区水前寺６丁目１８番１号
TEL：０９６－３３３－２２８７　FAX：０９６－３８７－３９４０

発 行 者：熊本県
所　　属：環境生活部県民生活局
　　男女参画・協働推進課
発行年度：平成３０年度